

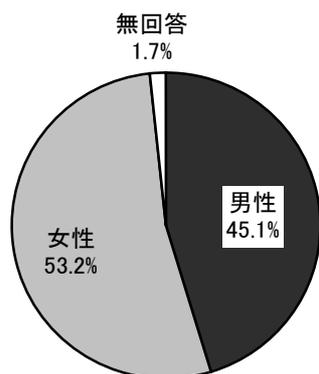
第3節 精神障害者調査

1. 基本属性

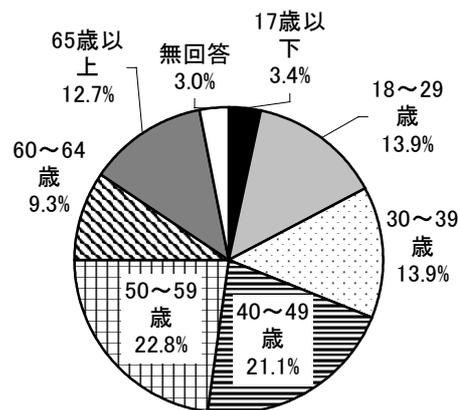
(1) 性別・年齢

問1 あなたの性別、年齢についておたずねします。

【図表 3-3-1 性別】(n=237)



【図表 3-3-2 年齢】(n=237)



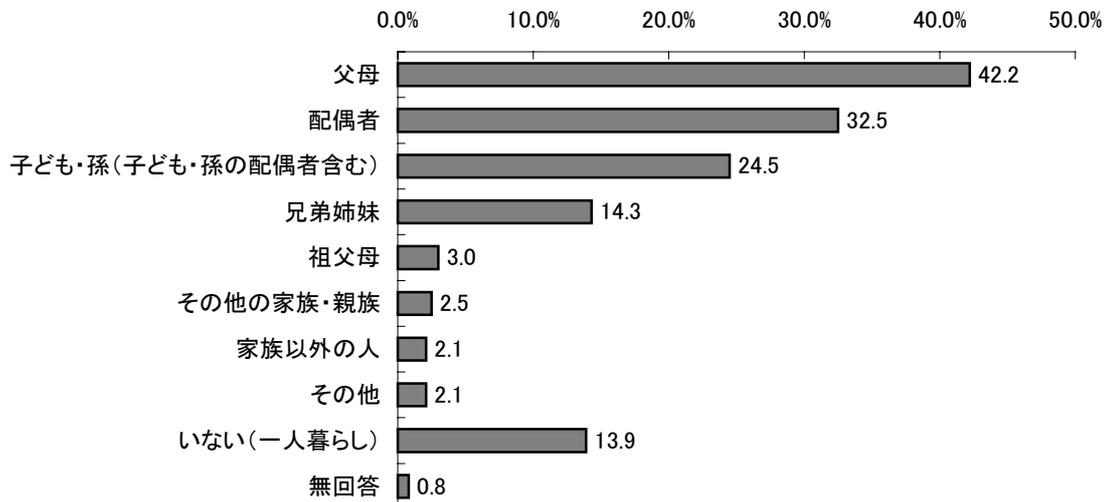
性別は、「男性」(45.1%)より「女性」(53.2%)がやや多い。

年齢は、50歳代(22.8%)が最も多く、次いで40歳代(21.1%)、30歳代(13.9%)、18~29歳(13.9%)となっている。

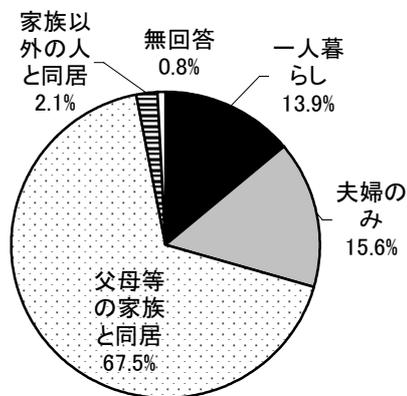
(2) 同居家族

問2 あなたは、どなたと同居していますか。(○はあてはまるものすべて)

【図表 3-3-3 同居家族】(n=237)



【図表 3-3-4 家族構成】(n=237)



同居家族は、「父母」(42.2%)が最も多く、次いで「配偶者」(32.5%)、「子ども・孫(子ども・孫の配偶者含む)」(24.5%)となっている。また、「いない(一人暮らし)」(13.9%)も1割を超えている。

同居家族をもとに家族構成を整理すると、「父母等の家族と同居」(67.5%)が7割弱を占めて最も多い。

年齢別にみると、「父母等の家族と同居」の割合は加齢とともに低下し、60歳代以上ではかわって「夫婦のみ」の割合が高まっている。

また、「一人暮らし」の割合は50歳代(24.1%)や65歳以上(23.3%)で他の年齢層より高く、2割を超えている。

第3章 調査結果[精神障害者調査]

【図表 3-3-5 性別・年齢別 同居家族】(%)

	調査数「n」 (人)	父母	配偶者	子ども・孫 の配偶者含む	兄弟姉妹	祖父母	その他の家族・ 親族	家族以外の人	その他	いない(一人暮らし)	無回答
全体	237	42.2	32.5	24.5	14.3	3.0	2.5	2.1	2.1	13.9	0.8
性別	男性	107	47.7	31.8	15.0	14.0	4.7	1.9	3.7	1.9	-
	女性	126	38.9	33.3	32.5	15.1	1.6	3.2	0.8	2.4	-
	無回答	4	-	25.0	25.0	-	-	-	-	25.0	50.0
年齢別	17歳以下	8	100.0	-	-	100.0	37.5	12.5	-	-	-
	18～29歳	33	81.8	6.1	9.1	24.2	-	6.1	-	3.0	-
	30～39歳	33	60.6	24.2	15.2	9.1	3.0	3.0	-	-	18.2
	40～49歳	50	46.0	42.0	38.0	6.0	2.0	2.0	4.0	2.0	4.0
	50～59歳	54	35.2	35.2	29.6	14.8	1.9	-	1.9	1.9	24.1
	60～64歳	22	4.5	50.0	31.8	9.1	4.5	-	4.5	4.5	13.6
	65歳以上	30	-	46.7	23.3	-	-	-	3.3	3.3	23.3
無回答	7	28.6	28.6	14.3	28.6	-	14.3	-	-	14.3	28.6

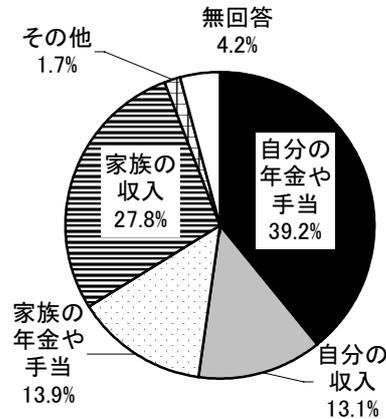
【図表 3-3-6 性別・年齢別 家族構成】(%)

	調査数「n」 (人)	一人暮らし	夫婦のみ	父母等の家族と同居	家族以外の人と同居	無回答	
全体	237	13.9	15.6	67.5	2.1	0.8	
性別	男性	107	12.1	16.8	67.3	3.7	-
	女性	126	15.1	15.1	69.0	0.8	-
	無回答	4	25.0	-	25.0	-	50.0
年齢別	17歳以下	8	-	-	100.0	-	-
	18～29歳	33	3.0	3.0	93.9	-	-
	30～39歳	33	18.2	6.1	75.8	-	-
	40～49歳	50	4.0	10.0	82.0	4.0	-
	50～59歳	54	24.1	13.0	61.1	1.9	-
	60～64歳	22	13.6	31.8	50.0	4.5	-
	65歳以上	30	23.3	46.7	26.7	3.3	-
無回答	7	14.3	14.3	42.9	-	28.6	

(3) 生活費の状況

問3 あなたの生活費は、主に、次のどれによってまかなわれていますか。(○は1つだけ)

【図表 3-3-7 生活費の状況】(n=237)



生活費は、「自分の年金や手当」(39.2%)が最も多く、次いで「家族の収入」(27.8%)となっている。

性別にみると、男女ともに「自分の年金や手当」が最も多いが、「自分の収入」は女性(5.6%)より男性(22.4%)、「家族の収入」は男性(18.7%)より女性(35.7%)で割合が高い。

年齢別にみると、20歳代以下では「家族の収入」が最も多いが、30歳代では「自分の年金や手当」(30.3%)・「自分の収入」(30.3%)が最も多く、40歳代以上になると「自分の年金や手当」が最も多くなっている。

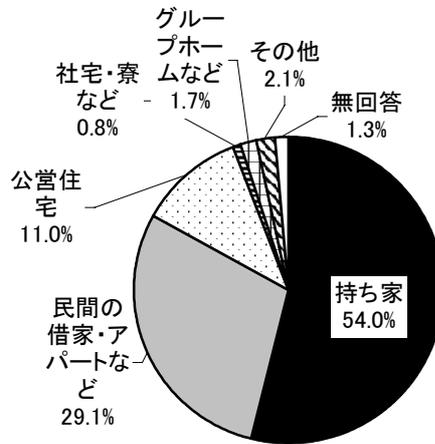
【図表 3-3-8 性別・年齢別 生活費の状況】(%)

		調査数「n」 (人)	自分の年金や手当	自分の収入	家族の年金や手当	家族の収入	その他	無回答
全体		237	39.2	13.1	13.9	27.8	1.7	4.2
性別	男性	107	40.2	22.4	13.1	18.7	0.9	4.7
	女性	126	38.9	5.6	15.1	35.7	2.4	2.4
	無回答	4	25.0	-	-	25.0	-	50.0
年齢別	17歳以下	8	-	-	-	100.0	-	-
	18~29歳	33	18.2	12.1	18.2	45.5	3.0	3.0
	30~39歳	33	30.3	30.3	12.1	21.2	-	6.1
	40~49歳	50	42.0	12.0	20.0	22.0	2.0	2.0
	50~59歳	54	37.0	14.8	13.0	29.6	-	5.6
	60~64歳	22	54.5	13.6	9.1	18.2	4.5	-
	65歳以上	30	76.7	-	13.3	6.7	-	3.3
	無回答	7	14.3	-	-	42.9	14.3	28.6

(4) 現在の住まい

問4 あなたの現在のお住まいは次のどれですか。(○は1つだけ)

【図表 3-3-9 現在の住まい】(n=237)



現在の住まいは、「持ち家」(54.0%)が最も多く、次いで「民間の借家・アパートなど」(29.1%)、「公営住宅」(11.0%)となっている。

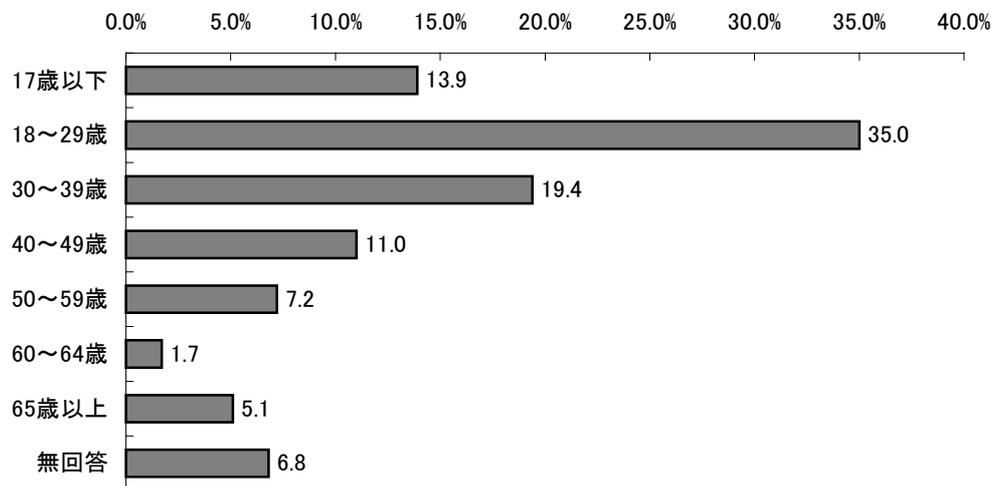
【図表 3-3-10 性別・年齢別 現在の住まい】(%)

	調査数「n」 (人)	持ち家	民間の借家・アパート	公営住宅	社宅・寮など	グループホームなど	その他	無回答	
全体	237	54.0	29.1	11.0	0.8	1.7	2.1	1.3	
性別	男性	107	55.1	31.8	9.3	-	1.9	1.9	-
	女性	126	53.2	27.8	12.7	1.6	1.6	2.4	0.8
	無回答	4	50.0	-	-	-	-	-	50.0
年齢別	17歳以下	8	75.0	25.0	-	-	-	-	-
	18～29歳	33	39.4	39.4	18.2	-	3.0	-	-
	30～39歳	33	45.5	51.5	3.0	-	-	-	-
	40～49歳	50	48.0	30.0	14.0	2.0	2.0	4.0	-
	50～59歳	54	63.0	22.2	11.1	-	-	1.9	1.9
	60～64歳	22	63.6	22.7	4.5	-	4.5	4.5	-
	65歳以上	30	56.7	16.7	16.7	3.3	3.3	3.3	-
	無回答	7	71.4	-	-	-	-	-	28.6

(5) 精神科・神経科の初診時期

問5 あなたが初めて精神科・神経科を受診したのは、何歳のころですか。

【図表 3-3-11 精神科・神経科の初診時期】(n=237)



精神科・神経科を初めて受診した時期は、「18~29歳」(35.0%)が最も多く、次いで「30~39歳」(19.4%)、「17歳以下」(13.9%)となっており、30歳代以下で全体の7割弱(68.3%)を占めている。

性別にみると、男女とも「18~29歳」が3割を超えて最も多いが、男性は女性に比べて「30~39歳」(27.1%)の割合が高い。一方、女性は男性に比べて50歳代以上の割合が高い。

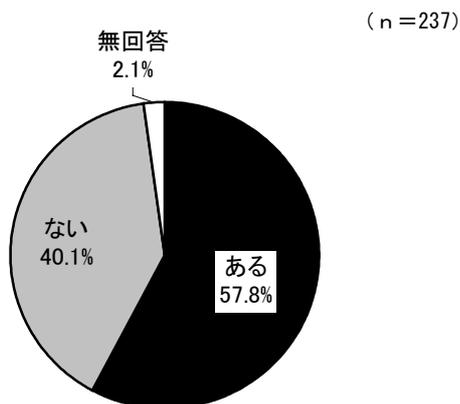
【図表 3-3-12 性別 精神科・神経科の初診時期】(%)

性別	調査数「n」(人)	初診時期 (%)							無回答
		17歳以下	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65歳以上	
全体	237	13.9	35.0	19.4	11.0	7.2	1.7	5.1	6.8
男性	107	11.2	35.5	27.1	13.1	3.7	-	1.9	7.5
女性	126	15.9	35.7	13.5	9.5	10.3	3.2	7.9	4.0
無回答	4	25.0	-	-	-	-	-	-	75.0

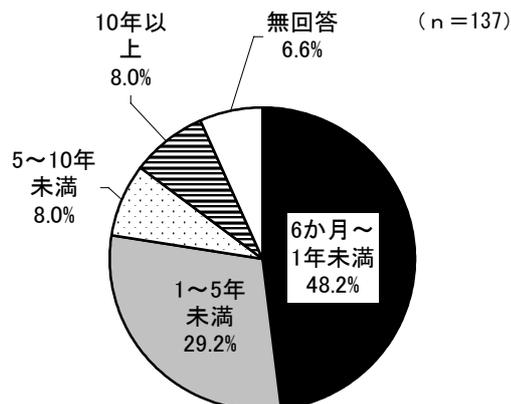
(6) 精神科・神経科の入院経験・入院期間

問6 これまでに精神科・神経科に入院したことがありますか。
 問6-1 (精神科・神経科に入院したことがある方のみお答えください) 何年くらい入院しましたか。2回以上入院した方はおおよそで結構ですから、合計した入院期間を教えてください。(〇は1つだけ)

【図表 3-3-13 精神科・神経科の入院経験】



【図表 3-3-14 精神科・神経科の入院期間】



回答者の6割弱(57.8%)は精神科・神経科に入院したことがある。また、入院経験がある人の入院期間では「6か月～1年未満」(48.2%)が最も多く、次いで「1～5年未満」(29.2%)となっている。

性別・年齢別にみても入院経験に大きな違いは見られない。

【図表 3-3-15 性別・年齢別 精神科・神経科の入院経験】 (%)

	(「調査人数」)	ある	ない	無回答	
全体	237	57.8	40.1	2.1	
性別	男性	107	58.9	39.3	1.9
	女性	126	57.9	41.3	0.8
	無回答	4	25.0	25.0	50.0
年齢別	17歳以下	8	-	100.0	-
	18～29歳	33	57.6	42.4	-
	30～39歳	33	48.5	48.5	3.0
	40～49歳	50	66.0	34.0	-
	50～59歳	54	64.8	33.3	1.9
	60～64歳	22	59.1	40.9	-
	65歳以上	30	60.0	36.7	3.3
	無回答	7	42.9	28.6	28.6

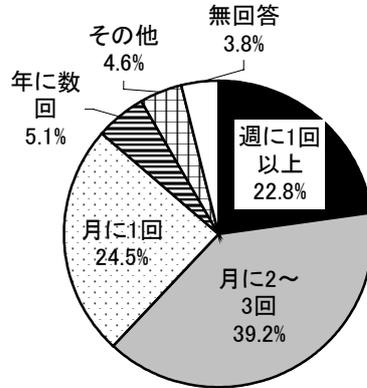
【図表 3-3-16 性別・年齢別 精神科・神経科の入院期間】 (%)

	(「調査人数」)	1年未満	1～5年未満	5～10年未満	10年以上	無回答	
全体	137	48.2	29.2	8.0	8.0	6.6	
性別	男性	63	52.4	30.2	7.9	9.5	-
	女性	73	43.8	28.8	8.2	6.8	12.3
	無回答	1	100.0	-	-	-	-
年齢別	17歳以下	-	-	-	-	-	
	18～29歳	19	63.2	36.8	-	-	
	30～39歳	16	68.8	18.8	6.3	6.3	
	40～49歳	33	30.3	36.4	18.2	12.1	3.0
	50～59歳	35	40.0	28.6	5.7	11.4	14.3
	60～64歳	13	53.8	15.4	7.7	15.4	7.7
	65歳以上	18	55.6	33.3	-	5.6	5.6
	無回答	3	66.7	-	33.3	-	-

(7) 精神科・神経科の現在の受診回数

問7 現在の受診回数は、どれくらいですか。(○は1つだけ)

【図表 3-3-17 精神科・神経科の現在の受診回数】(n=237)



精神科・神経科の現在の受診回数は、「月に2~3回」(39.2%)が最も多く、次いで「月に1回」(24.5%)、「週に1回以上」(22.8%)となっている。

【図表 3-3-18 性別・年齢別 精神科・神経科の現在の受診回数】(%)

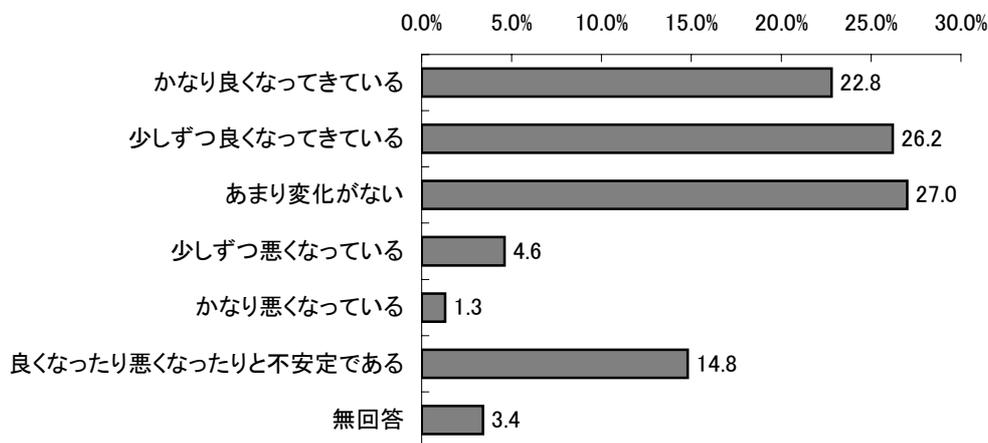
		調査数「n」 (人)	週に1回以上	月に2~3回	月に1回	年に数回	その他	無回答
全体		237	22.8	39.2	24.5	5.1	4.6	3.8
性別	男性	107	19.6	43.0	24.3	5.6	3.7	3.7
	女性	126	25.4	37.3	24.6	4.8	5.6	2.4
	無回答	4	25.0	-	25.0	-	-	50.0
年齢別	17歳以下	8	-	-	-	87.5	-	12.5
	18~29歳	33	36.4	39.4	15.2	3.0	3.0	3.0
	30~39歳	33	24.2	33.3	36.4	-	3.0	3.0
	40~49歳	50	22.0	40.0	22.0	2.0	12.0	2.0
	50~59歳	54	18.5	40.7	35.2	-	3.7	1.9
	60~64歳	22	22.7	54.5	9.1	4.5	4.5	4.5
	65歳以上	30	23.3	46.7	20.0	6.7	-	3.3
	無回答	7	14.3	14.3	42.9	-	-	28.6

2. 心身状況及び生活状況

(1) 現在の症状

問8 あなたの今の症状はいかがですか。(○は1つだけ)

【図表 3-3-19 現在の症状】(n=237)



現在の症状は、「あまり変化がない」(27.0%)が最も多く、次いで「少しずつ良くなってきている」(26.2%)、「かなり良くなってきている」(22.8%)となっている。回復傾向にある人(「かなり良くなってきている」+「少しずつ良くなってきている」)が49.0%、悪化傾向にある人(「少しずつ悪くなっている」+「かなり悪くなっている」)が5.9%となっている。また、「良くなったり悪くなったりと不安定である」との回答も14.8%と1割を超えている。

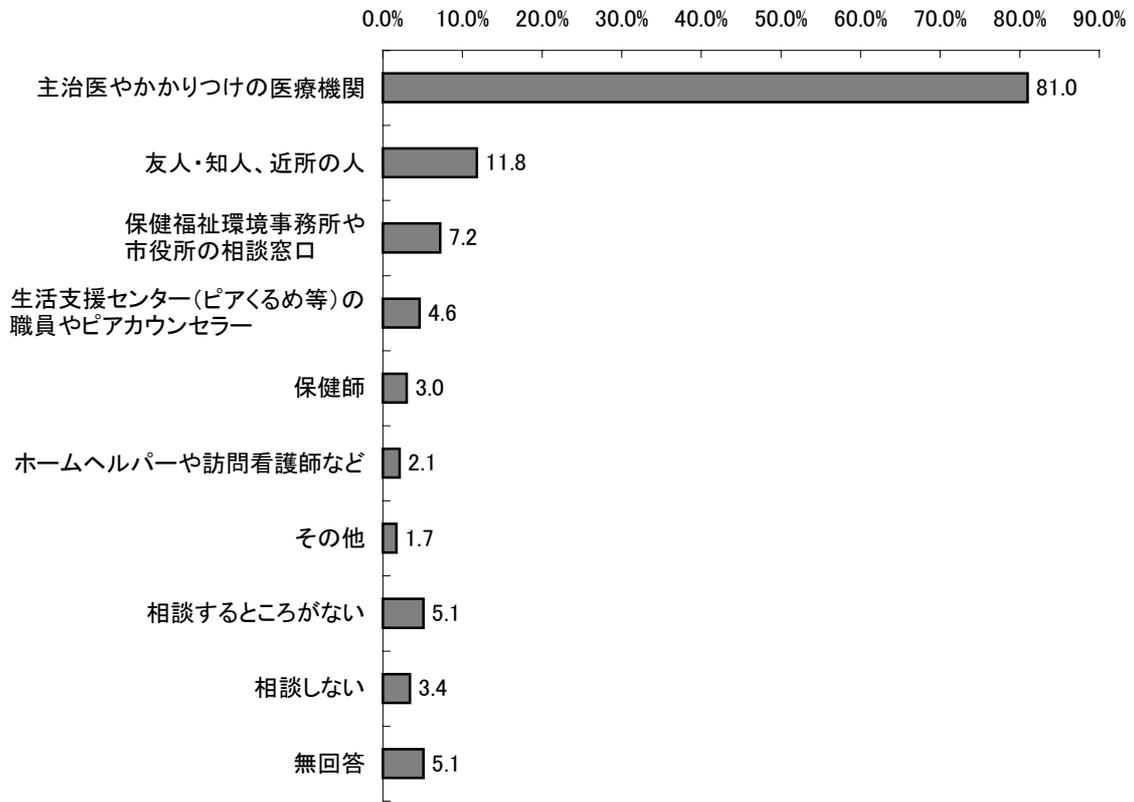
【図表 3-3-20 性別・年齢別 現在の症状】(%)

		調査数「n」 (人)	いかなり るかなり 良くな ってき て	て少し いず つ良 くな ってき	あ ま り 変 化 が な い	る少 し ず つ 悪 く な っ て い	か な り 悪 く な っ て い る	た り 良 く な っ た り 不 安 定 で あ る 悪 く な っ て い る	無 回 答
全 体		237	22.8	26.2	27.0	4.6	1.3	14.8	3.4
性別	男性	107	24.3	26.2	29.9	4.7	0.9	10.3	3.7
	女性	126	22.2	27.0	23.8	4.8	1.6	19.0	1.6
	無回答	4	-	-	50.0	-	-	-	50.0
年齢別	17歳以下	8	62.5	12.5	25.0	-	-	-	-
	18～29歳	33	21.2	33.3	24.2	6.1	-	15.2	-
	30～39歳	33	6.1	45.5	33.3	3.0	3.0	6.1	3.0
	40～49歳	50	20.0	24.0	30.0	2.0	-	22.0	2.0
	50～59歳	54	22.2	24.1	29.6	1.9	3.7	16.7	1.9
	60～64歳	22	22.7	18.2	18.2	13.6	-	22.7	4.5
	65歳以上	30	33.3	20.0	20.0	10.0	-	10.0	6.7
	無回答	7	42.9	-	28.6	-	-	-	28.6

(2) 急に支援が必要になった場合の相談先

問9 あなたは、精神的に急に具合が悪くなり、誰かの支援が必要になった場合、家族・親族以外では、誰（どこ）に相談しますか。（○はあてはまるものすべて）

【図表 3-3-21 急に支援が必要になった場合の相談先】(n=237)



精神的に急に具合が悪くなり、支援が必要になった場合の家族・親族以外の相談先は、「主治医やかかりつけの医療機関」(81.0%)が8割を超えて最も多く、次いで「友人・知人、近所の人」(11.8%)となっている。

年齢別にみると、いずれの年齢層においても、「主治医やかかりつけの医療機関」が最も多いが、18～29歳では他の年齢層に比べて「友人・知人、近所の人」(21.2%)や「保健師」(9.1%)の割合が高い。また、65歳以上では「ホームヘルパーや訪問看護師など」(13.3%)の割合が高い。

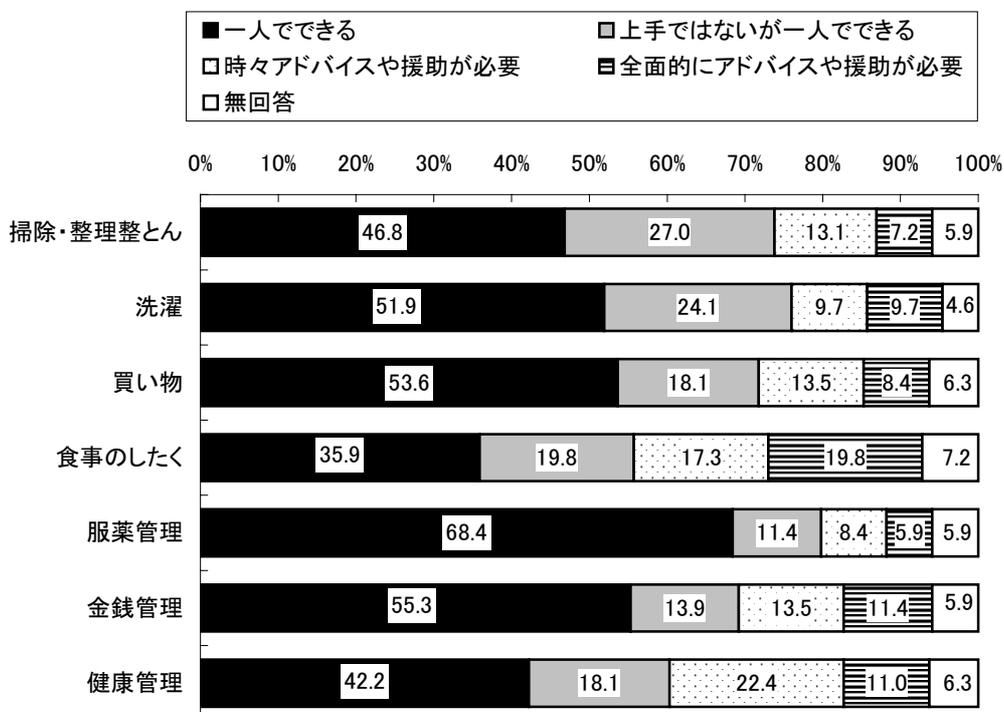
【図表 3-3-22 年齢別 急に支援が必要になった場合の相談先】(%)

	調査数「n」(人)	主治医やかかりつけの医療機関	友人・知人、近所の人	保健福祉環境事務所や市役所の相談窓口	生活支援センター(ピアくるめ等)の職員やピアカウンセラー	保健師	ホームヘルパーや訪問看護師など	その他	相談するところがない	相談しない	無回答	
全体	237	81.0	11.8	7.2	4.6	3.0	2.1	1.7	5.1	3.4	5.1	
年齢別	17歳以下	8	75.0	-	25.0	-	-	12.5	12.5	-	12.5	
	18～29歳	33	78.8	21.2	9.1	9.1	-	-	6.1	6.1	3.0	
	30～39歳	33	78.8	15.2	6.1	9.1	3.0	-	3.0	6.1	3.0	
	40～49歳	50	86.0	12.0	8.0	6.0	2.0	-	4.0	2.0	4.0	
	50～59歳	54	85.2	11.1	9.3	3.7	3.7	1.9	1.9	3.7	1.9	
	60～64歳	22	72.7	4.5	4.5	4.5	-	-	4.5	9.1	4.5	9.1
	65歳以上	30	83.3	6.7	-	-	-	13.3	-	-	-	6.7
	無回答	7	57.1	14.3	-	-	-	-	14.3	-	28.6	

(3) 日常生活動作

問10 あなたは、次のようなことが一人でできますか。それぞれの項目について、あてはまるものに1つずつ○をつけてください。

【図表 3-3-23 日常生活動作】(n=237)



7項目の日常生活動作について自立度をたずねたところ、「服薬管理」をはじめ、いずれの項目においても「一人でできる」が最も多くなっている。

「時々アドバイスや援助が必要」「全面的にアドバイスや援助が必要」をあわせた要援助の割合は『食事のしたく』(37.1%)や『健康管理』(33.3%)、『金銭管理』(24.9%)などで他の項目に比べて高い。

要援助の割合を性別にみると、『洗濯』や『食事のしたく』は女性より男性で高く、『掃除・整理整頓』や『買い物』、『健康管理』、『服薬管理』などは男性より女性で高い。

年齢別にみると、18～29歳や65歳以上では、他の年齢層に比べて全般的に要援助の割合が高い。

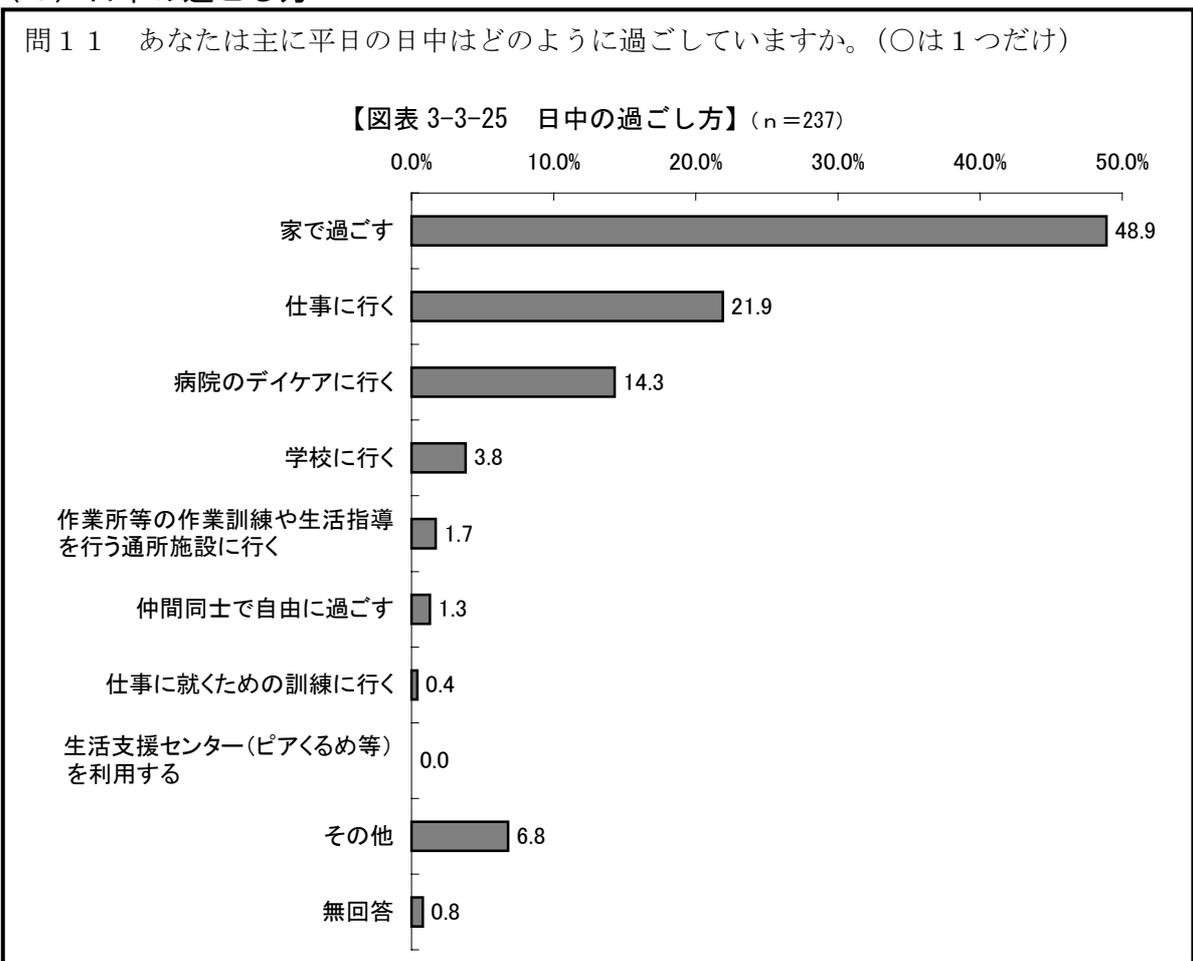
現在の症状別にみると、回復傾向にある人では要援助の割合が低く、『食事のしたく』(25.0%)以外はすべて1割台以下である。一方、症状に変化がない人や悪化傾向にある人では要援助の割合が高く、症状に変化がない人では『食事のしたく』(56.3%)、悪化傾向にある人では『健康管理』(85.7%)で高い。また、症状が不安定な人では他に比べて『金銭管理』(45.7%)で要援助の割合が高い。

【図表 3-3-24 性別・年齢別・現在の症状別 日常生活動作に援助を要する人
 (「時々アドバイスや援助」「全面的にアドバイスや援助」の合計値)】(%)

		調査数「n」 (人)	掃除・整理整頓	洗濯	買い物	食事のしたく	服薬管理	金銭管理	健康管理	無回答
全	体	237	20.3	19.4	21.9	37.1	14.3	24.9	33.3	46.8
性別	男性	107	17.8	23.4	15.0	42.1	11.2	23.4	29.9	46.7
	女性	126	22.2	16.7	27.8	33.3	16.7	26.2	36.5	46.0
	無回答	4	25.0	-	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	75.0
年齢別	17歳以下	8	-	12.5	12.5	25.0	25.0	25.0	25.0	75.0
	18～29歳	33	24.2	33.3	24.2	54.5	24.2	27.3	33.3	39.4
	30～39歳	33	18.2	21.2	21.2	42.4	9.1	33.3	33.3	36.4
	40～49歳	50	24.0	16.0	24.0	38.0	12.0	28.0	30.0	50.0
	50～59歳	54	11.1	11.1	11.1	29.6	5.6	14.8	33.3	48.1
	60～64歳	22	13.6	13.6	22.7	27.3	13.6	13.6	22.7	59.1
	65歳以上	30	36.7	33.3	40.0	40.0	26.7	33.3	53.3	40.0
	無回答	7	28.6	-	14.3	14.3	14.3	28.6	14.3	57.1
現在の症状	回復	116	13.8	13.8	10.3	25.0	6.0	13.8	16.4	60.3
	変化なし	64	25.0	26.6	31.3	56.3	26.6	32.8	48.4	31.3
	悪化	14	50.0	50.0	50.0	50.0	28.6	35.7	85.7	14.3
	症状不安定	35	20.0	14.3	31.4	42.9	14.3	45.7	42.9	37.1
	無回答	8	25.0	12.5	25.0	12.5	12.5	12.5	25.0	75.0

(4) 日中の過ごし方

問 1 1 あなたは主に平日の日中はどのように過ごしていますか。(○は1つだけ)



平日の日中の過ごし方は、「家で過ごす」(48.9%)が最も多く、次いで「仕事に行く」(21.9%)、「病院のデイケアに行く」(14.3%)となっている。

性別にみると、男性では「仕事に行く」(33.6%)が「家で過ごす」(32.7%)をやや上回って最も多いが、女性では「家で過ごす」(62.7%)が6割を超えて最も多い。

年齢別にみると、30歳代では他の年齢層に比べて「仕事に行く」(39.4%)の割合が高い。

現在の症状別にみると、いずれの状態においても「家で過ごす」が最も多いが、回復傾向にある人や症状に変化がない人では、これに次いで「仕事に行く」の割合が高く、悪化傾向にある人や症状が不安定な人では「病院のデイケアに行く」の割合が高い。

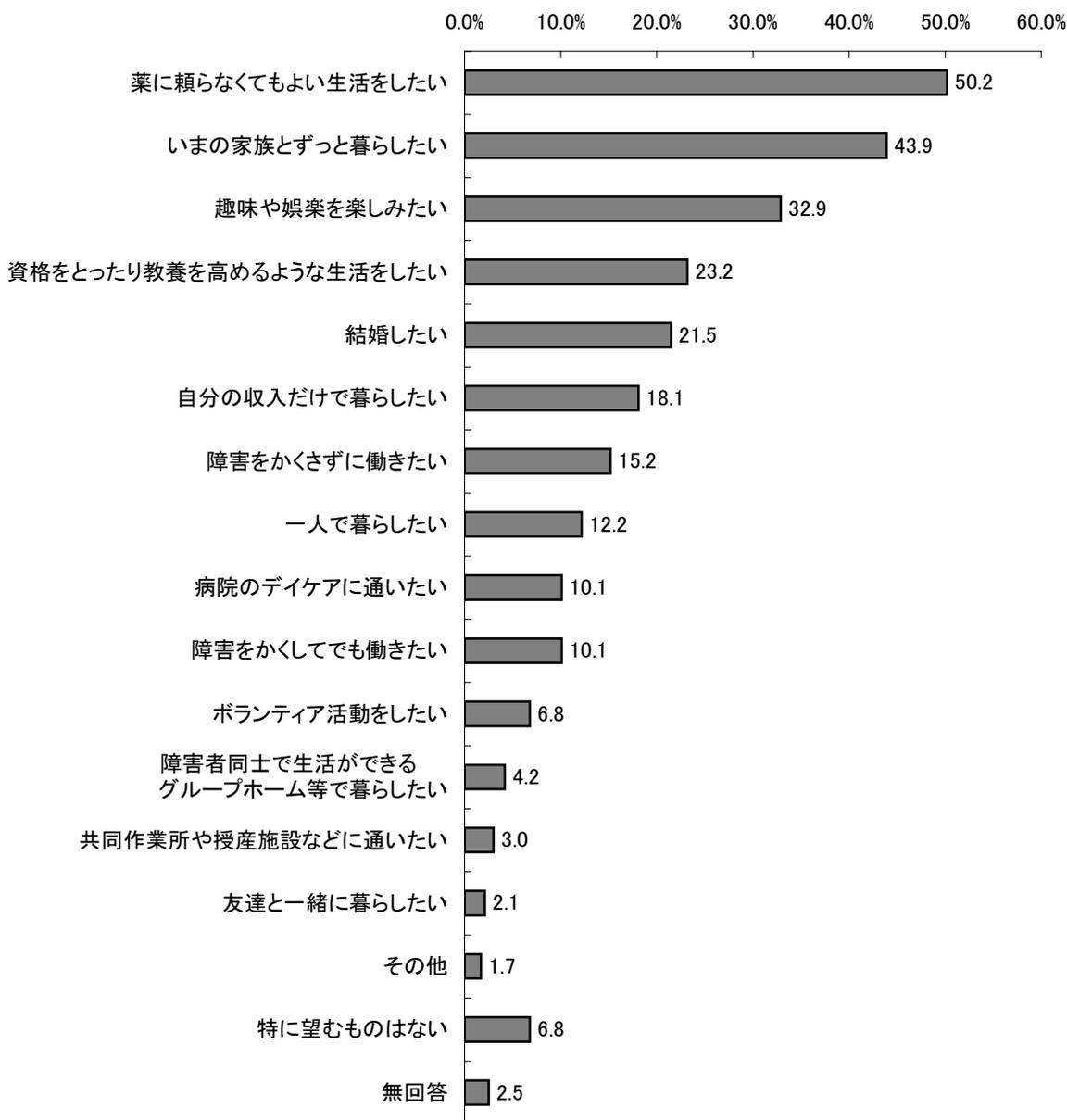
【図表 3-3-26 性別・年齢別・現在の症状別 日中の過ごし方】(%)

		調査数「n」 (人)	家で過ごす	仕事に行く	病院のデイケアに行く	学校に行く	生活指 導を行 く	作業所 等の作 業通所 施設や 訓練	仲間 同士で 自由に 過ごす	仕事に 就くた めの訓 練	ア ル 生 活 支 援 セ ン タ ー (ピ)	その他	無 回 答
全	体	237	48.9	21.9	14.3	3.8	1.7	1.3	0.4	-	6.8	0.8	
性 別	男性	107	32.7	33.6	16.8	2.8	3.7	1.9	0.9	-	6.5	0.9	
	女性	126	62.7	11.9	12.7	4.8	-	0.8	-	-	7.1	-	
	無回答	4	50.0	25.0	-	-	-	-	-	-	-	25.0	
年 齢 別	17歳以下	8	-	-	-	87.5	-	-	-	-	-	12.5	-
	18～29歳	33	54.5	18.2	15.2	6.1	-	-	-	-	6.1	-	
	30～39歳	33	39.4	39.4	15.2	-	6.1	-	-	-	-	-	
	40～49歳	50	46.0	24.0	18.0	-	4.0	-	-	-	8.0	-	
	50～59歳	54	53.7	24.1	13.0	-	-	1.9	1.9	-	5.6	-	
	60～64歳	22	40.9	31.8	9.1	-	-	4.5	-	-	9.1	4.5	
	65歳以上	30	63.3	-	20.0	-	-	3.3	-	-	13.3	-	
	無回答	7	71.4	14.3	-	-	-	-	-	-	-	14.3	
別 現 在 の 症 状	回復	116	46.6	25.9	10.3	6.0	1.7	2.6	0.9	-	6.0	-	
	変化なし	64	51.6	23.4	15.6	3.1	-	-	-	-	6.3	-	
	悪化	14	50.0	7.1	21.4	-	-	-	-	-	21.4	-	
	症状不安定	35	57.1	8.6	22.9	-	5.7	-	-	-	5.7	-	
	無回答	8	25.0	37.5	12.5	-	-	-	-	-	-	25.0	

(5) 将来の日常生活に望むこと

問12 あなたは将来の日常生活として、どのようなものを望んでいますか。(○はあてはまるものすべて)

【図表 3-3-27 将来の日常生活に望むこと】(n=237)



将来の日常生活に望むことは、「薬に頼らなくてもよい生活をしたい」(50.2%)が最も多く、次いで「いまの家族とずっと暮らしたい」(43.9%)、「趣味や娯楽を楽しみたい」(32.9%)、「資格をとったり教養を高めるような生活をしたい」(23.2%)となっている。

性別にみると、男女とも「薬に頼らなくてもよい生活をしたい」や「いまの家族とずっと暮らしたい」などが上位に位置し、大きな違いは見られないが、男性は女性に比べて「障害をかくさずに働きたい」(20.6%)や「ボランティア活動をしたい」(11.2%)の割合が高い。

年齢別にみると、18歳～30歳代では他の年齢層に比べて「障害をかくしてでも働きたい」や「自分の収入だけで暮らしたい」などの就労に関する項目や、「趣味や娯楽を楽しみたい」や「資格をとったり教養を高めるような生活をしたい」などの割合が高い。

現在の症状別にみると、いずれの状態においても「薬に頼らなくてもよい生活をしたい」「いまの家族とずっと暮らしたい」「趣味や娯楽を楽しみたい」が上位を占めているが、悪化傾向にある人や症状が不安定な人では、他に比べて「障害者同士で生活ができるグループホーム等で暮らしたい」の割合が高く、1割を超えている。

【図表 3-3-28 性別・年齢別・現在の症状別 将来の日常生活に望むこと】(%)

		調査数「n」 (人)	薬に頼らなくてもよい生活をした	いまの家族とずっと暮らしたい	趣味や娯楽を楽しみたい	高格をとりた	資格をとつたり教養をし	結婚したい	自分の収入だけで暮らしたい	障害をかくさずに働きたい	一人で暮らしたい
全体		237	50.2	43.9	32.9	23.2	21.5	18.1	15.2	12.2	
性別	男性	107	46.7	45.8	34.6	22.4	25.2	22.4	20.6	15.0	
	女性	126	53.2	42.9	31.7	23.8	19.0	15.1	10.3	10.3	
	無回答	4	50.0	25.0	25.0	25.0	-	-	25.0	-	
年齢別	17歳以下	8	62.5	25.0	25.0	37.5	50.0	-	-	-	12.5
	18～29歳	33	60.6	39.4	48.5	45.5	60.6	33.3	21.2	12.1	
	30～39歳	33	60.6	36.4	51.5	33.3	33.3	33.3	30.3	24.2	
	40～49歳	50	48.0	50.0	22.0	28.0	18.0	14.0	26.0	6.0	
	50～59歳	54	50.0	35.2	31.5	14.8	9.3	13.0	9.3	14.8	
	60～64歳	22	40.9	63.6	22.7	4.5	4.5	9.1	-	9.1	
	65歳以上	30	36.7	56.7	30.0	3.3	-	13.3	-	10.0	
	無回答	7	42.9	28.6	14.3	28.6	14.3	14.3	14.3	-	
現在の症状別	回復	116	51.7	50.0	35.3	29.3	24.1	20.7	10.3	11.2	
	変化なし	64	50.0	35.9	34.4	23.4	15.6	20.3	21.9	10.9	
	悪化	14	57.1	50.0	42.9	21.4	28.6	21.4	21.4	21.4	
	症状不安定	35	48.6	37.1	22.9	8.6	22.9	5.7	20.0	17.1	
	無回答	8	25.0	37.5	12.5	-	12.5	12.5	-	-	

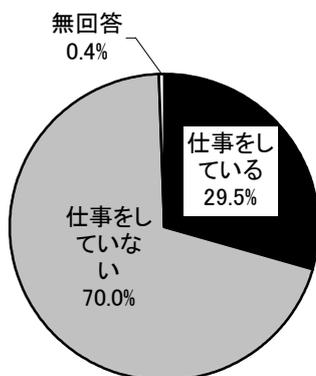
		調査数「n」 (人)	病院的なデイケアに通いたい	障害をかくしてでも働きたい	ボランティア活動をした	障害者グループホーム等で暮らしたい	共同作業所や授産施設などに通いたい	友達と一緒に暮らしたい	その他	特に望むものはない	無回答
全体		237	10.1	10.1	6.8	4.2	3.0	2.1	1.7	6.8	2.5
性別	男性	107	13.1	11.2	11.2	2.8	4.7	0.9	-	7.5	2.8
	女性	126	7.9	8.7	3.2	5.6	1.6	2.4	3.2	6.3	1.6
	無回答	4	-	25.0	-	-	-	25.0	-	-	25.0
年齢別	17歳以下	8	-	-	-	-	-	12.5	-	25.0	-
	18～29歳	33	9.1	27.3	6.1	-	6.1	-	-	6.1	3.0
	30～39歳	33	6.1	21.2	9.1	6.1	9.1	-	3.0	3.0	-
	40～49歳	50	8.0	6.0	8.0	4.0	4.0	2.0	6.0	8.0	2.0
	50～59歳	54	14.8	5.6	7.4	7.4	-	3.7	-	3.7	5.6
	60～64歳	22	4.5	-	4.5	4.5	-	-	-	9.1	-
	65歳以上	30	20.0	3.3	6.7	3.3	-	-	-	6.7	-
	無回答	7	-	14.3	-	-	-	14.3	-	14.3	14.3
現在の症状別	回復	116	5.2	10.3	7.8	2.6	3.4	2.6	1.7	6.9	0.9
	変化なし	64	14.1	9.4	7.8	1.6	1.6	3.1	1.6	9.4	1.6
	悪化	14	21.4	7.1	7.1	14.3	7.1	-	-	7.1	-
	症状不安定	35	14.3	11.4	2.9	11.4	2.9	-	2.9	2.9	5.7
	無回答	8	12.5	12.5	-	-	-	-	-	-	25.0

3. 就労について

(1) 就労状況

問13 あなたは現在仕事をしていますか。

【図表 3-3-29 就労状況】(n=237)



回答者の 29.5%は現在仕事をしている。

仕事をしている人の割合を性別にみると、女性 (16.7%) より男性 (44.9%) で高い。

年齢別にみると、30 歳代 (51.5%) で半数を超えて最も高く、次いで 60～64 歳 (36.4%)、18～29 歳 (33.3%) となっている。

現在の症状別にみると、仕事をしている人の割合は、悪化傾向にある人 (14.3%) や症状が不安定な人 (17.1%) で低く、1 割台に留まる。

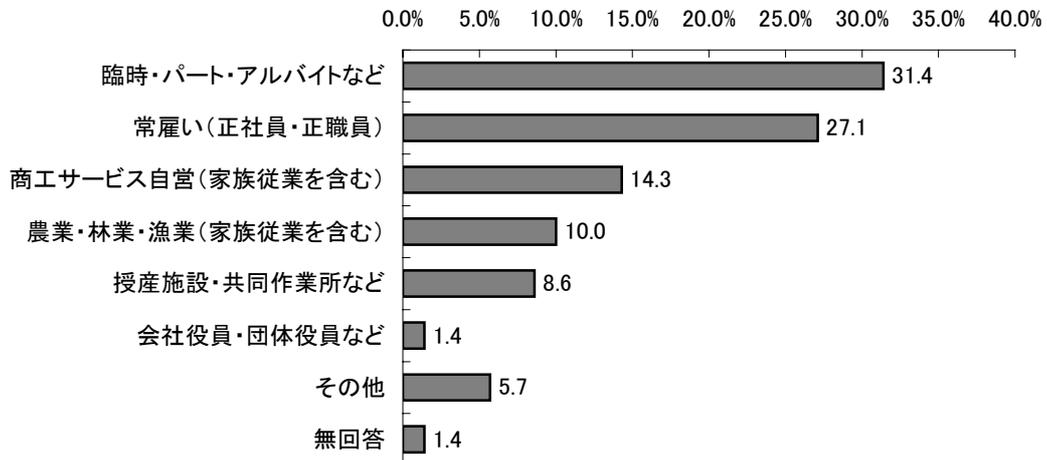
【図表 3-3-30 性別・年齢別・現在の症状別 就労状況】(%)

		調査数「n」 (人)	仕事をしている	仕事をしていない	無回答
全 体		237	29.5	70.0	0.4
性別	男性	107	44.9	55.1	-
	女性	126	16.7	83.3	-
	無回答	4	25.0	50.0	25.0
年齢別	17歳以下	8	-	100.0	-
	18～29歳	33	33.3	66.7	-
	30～39歳	33	51.5	48.5	-
	40～49歳	50	32.0	68.0	-
	50～59歳	54	29.6	70.4	-
	60～64歳	22	36.4	63.6	-
	65歳以上	30	3.3	96.7	-
	無回答	7	14.3	71.4	14.3
別現在の症状	回復	116	34.5	65.5	-
	変化なし	64	29.7	70.3	-
	悪化	14	14.3	85.7	-
	症状不安定	35	17.1	82.9	-
	無回答	8	37.5	50.0	12.5

(2) 仕事の種類

問13-1 (仕事をしている方のみお答えください) あなたはどのような仕事をしていま
すか。(〇は1つだけ)

【図表 3-3-31 仕事の種類】(n=70)



仕事の種類は、「臨時・パート・アルバイトなど」(31.4%)が最も多く、次いで「常雇い(正社員・正職員)」(27.1%)となっている。

性別にみると、男性では「常雇い(正社員・正職員)」(33.3%)が最も多いが、女性では「臨時・パート・アルバイトなど」(57.1%)が最も多い。

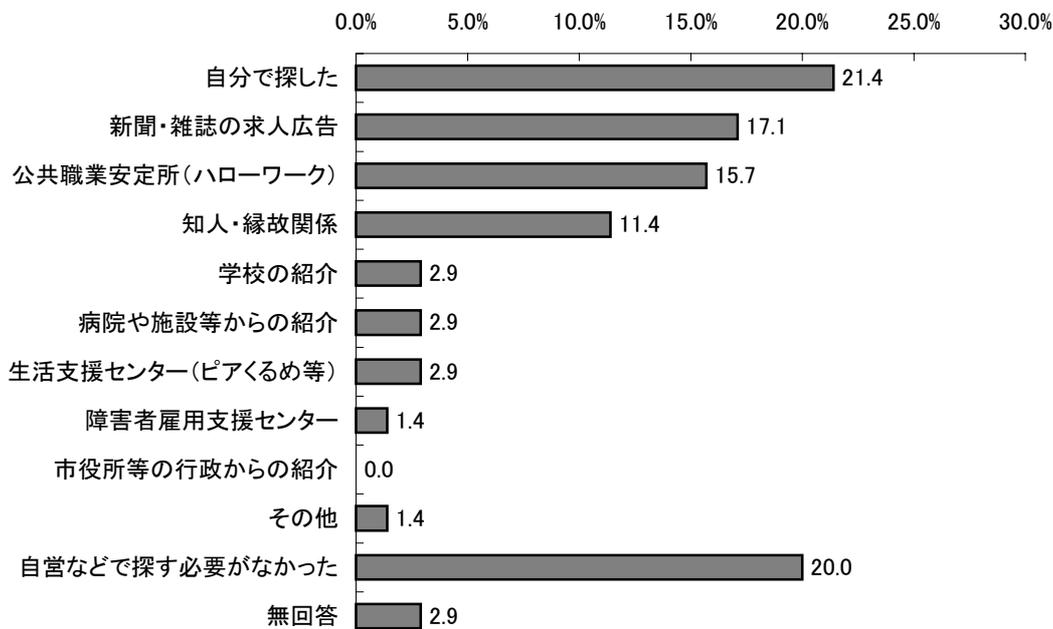
【図表 3-3-32 性別・年齢別・現在の症状別 仕事の種類】(%)

	調査数「n」 (人)	臨時・パート・アルバイト	常雇い(正社員・正職員)	商工サービス自営(家族従業を含む)	農業・林業・漁業(家族従業を含む)	授産施設・共同作業所など	会社役員・団体役員など	その他	無回答
		(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
全体	70	31.4	27.1	14.3	10.0	8.6	1.4	5.7	1.4
性別	男性	48	20.8	33.3	16.7	10.4	2.1	6.3	-
	女性	21	57.1	14.3	4.8	9.5	-	4.8	4.8
	無回答	1	-	-	100.0	-	-	-	-
年齢別	17歳以下	-	-	-	-	-	-	-	-
	18~29歳	11	72.7	-	18.2	-	9.1	-	-
	30~39歳	17	29.4	41.2	5.9	5.9	11.8	-	5.9
	40~49歳	16	25.0	37.5	-	18.8	12.5	6.3	-
	50~59歳	16	18.8	37.5	18.8	12.5	6.3	-	6.3
	60~64歳	8	25.0	-	37.5	12.5	-	-	12.5
	65歳以上	1	-	-	-	-	-	-	100.0
	無回答	1	-	-	100.0	-	-	-	-
別現在の症状	回復	40	35.0	22.5	15.0	12.5	7.5	-	7.5
	変化なし	19	26.3	47.4	10.5	10.5	-	-	5.3
	悪化	2	-	50.0	-	-	50.0	-	-
	症状不安定	6	33.3	-	16.7	-	33.3	-	-
	無回答	3	33.3	-	33.3	-	-	33.3	-

(3) 仕事を見つけた方法

問13-2 (仕事をしている方のみお答えください) 仕事はどのような方法で見つめましたか。(○は1つだけ)

【図表 3-3-33 仕事を見つけた方法】(n=70)



仕事を見つけた方法は、「自分で探した」(21.4%)が最も多く、次いで「自営などで探す必要がなかった」(20.0%)、「新聞・雑誌の求人広告」(17.1%)となっている。

【図表 3-3-34 現在の症状別 仕事を見つけた方法】(%)

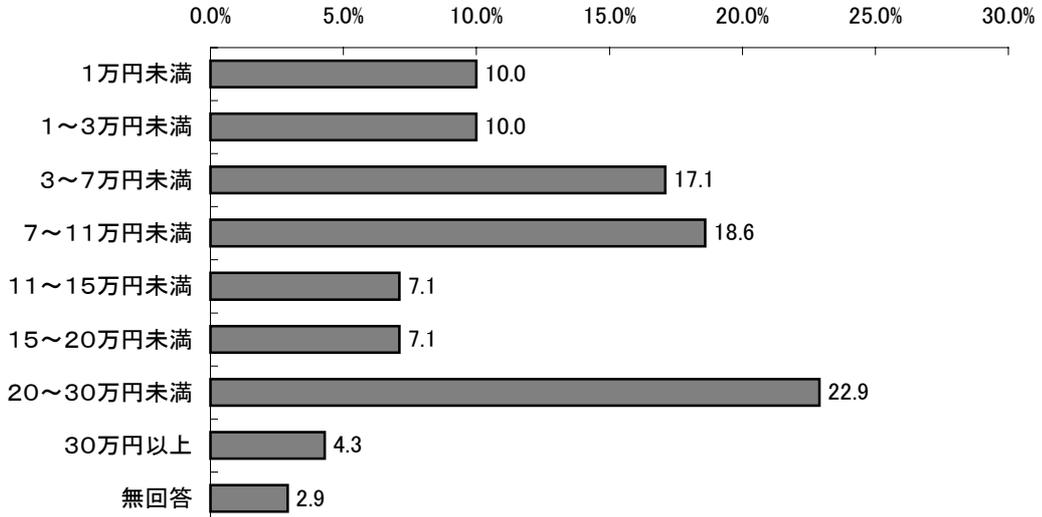
	(調査数「n」)	自分で探した	新聞・雑誌の求人	公共職業安定所(ハローワーク)	知人・縁故関係	学校の紹介	病院や施設等からの紹介	
全体	70	21.4	17.1	15.7	11.4	2.9	2.9	
現在の症状別	回復	40	15.0	15.0	20.0	12.5	2.5	5.0
	変化なし	19	31.6	21.1	15.8	10.5	5.3	-
	悪化	2	50.0	-	-	-	-	-
	症状不安定	6	16.7	33.3	-	16.7	-	-
	無回答	3	33.3	-	-	-	-	-

	(調査数「n」)	生活支援センター(ピアくめ等)	障害者雇用支援センター	市役所等の行政からの紹介	その他	自営などで探す必要がなかった	無回答
全体	70	2.9	1.4	-	1.4	20.0	2.9
現在の症状別	回復	40	5.0	-	-	25.0	-
	変化なし	19	-	-	-	15.8	-
	悪化	2	-	-	-	50.0	-
	症状不安定	6	-	16.7	-	-	16.7
	無回答	3	-	-	-	-	33.3

(4) 月収

問13-3 (仕事をしている方のみお答えください) あなたが仕事で得る月収は平均しておよそいくらくらいですか。(〇は1つだけ)

【図表 3-3-35 月収】(n=70)



仕事で得る月収は、「20~30万円未満」(22.9%)が最も多く、次いで「7~11万円未満」(18.6%)、「3~7万円未満」(17.1%)となっている。全体の7割(69.9%)が月収20万円未満である。

仕事の種類別にみると、常雇いでは「20~30万円未満」(63.2%)が最も多く、6割を超えているが、臨時・パート・アルバイトなどや農業・林業・漁業、授産施設・共同作業所などのその他のほとんどの職種では、過半数が月収20万円未満となっている。

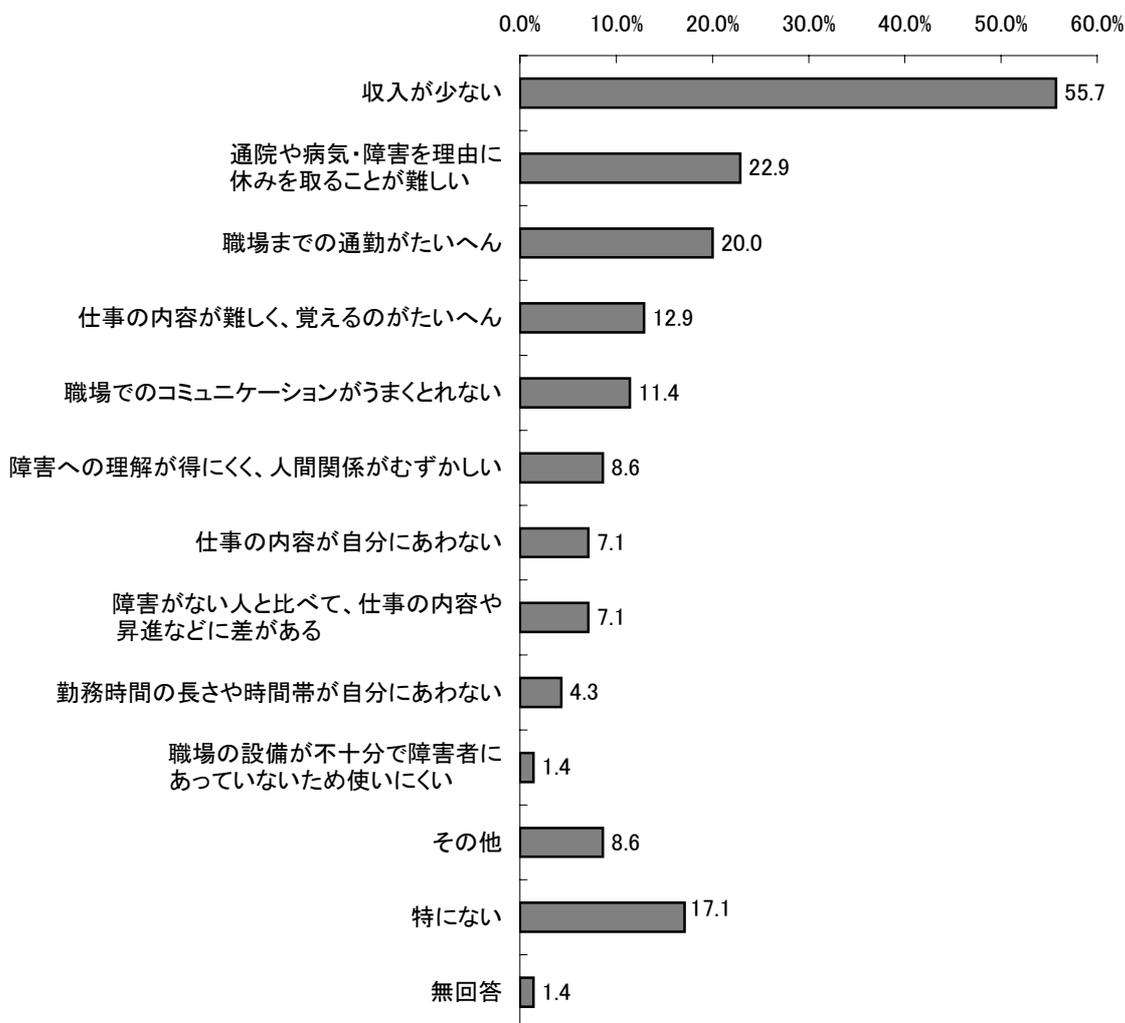
【図表 3-3-36 仕事の種類別 月収】(%)

	調査数 (人)	1万円未満	1~3万円未満	3~7万円未満	7~11万円未満	11~15万円未満	15~20万円未満	20~30万円未満	30万円以上	無回答
全体	70	10.0	10.0	17.1	18.6	7.1	7.1	22.9	4.3	2.9
仕事の種類別										
農業・林業・漁業(家族従業を含む)	7	14.3	14.3	42.9	-	14.3	14.3	-	-	-
商工サービス自営(家族従業を含む)	10	-	-	10.0	30.0	10.0	-	30.0	20.0	-
会社役員・団体役員など	1	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-
常雇い(正社員・正職員)	19	-	-	-	10.5	-	21.1	63.2	5.3	-
臨時・パート・アルバイトなど	22	13.6	18.2	27.3	31.8	9.1	-	-	-	-
授産施設・共同作業所など	6	33.3	33.3	16.7	16.7	-	-	-	-	-
その他	4	25.0	-	25.0	-	25.0	-	-	-	25.0
無回答	1	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0

(5) 仕事上の悩みや困っていること

問13-4 (仕事をしている方のみお答えください) 仕事のことによって悩んでいることや困っていることがありますか。(〇はあてはまるものすべて)

【図表 3-3-37 仕事上の悩みや困っていること】(n=70)



仕事上の悩みや困っていることは、「収入が少ない」(55.7%)が最も多く、次いで「通院や病気・障害を理由に休みを取ることが難しい」(22.9%)、「職場までの通勤がたいへん」(20.0%)となっている。

仕事の種類別にみると、常雇いでは他に比べて「職場でのコミュニケーションがうまくとれない」(26.3%)や「職場までの通勤がたいへん」(47.4%)などの割合が高い。

【図表 3-3-38 現在の症状別・仕事の種類別 仕事上の悩みや困っていること】(%)

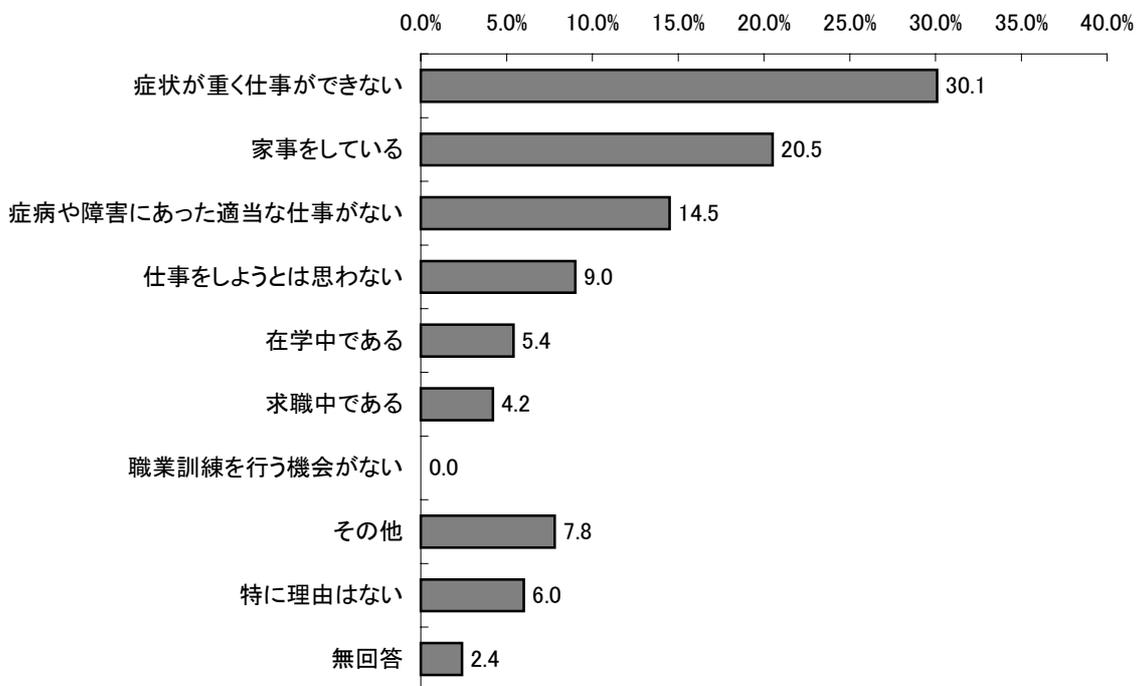
	調査数「n」 (人)	収入が 少ない	難し い休 みに 病 気 を 取 る こ と が 理	通 院 や 病 気 ・ 障 害 を 理	職 場 ま で の 通 勤 が た い	覚 え る の 内 容 が た い へ ん	い シ ョ ン で の コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン が た い	し く、 障 害 人 へ の 理 解 が 得 ず に か く
全 体	70	55.7	22.9	20.0	12.9	11.4	8.6	
別 現 在 の 症 状	回復	40	55.0	20.0	15.0	7.5	7.5	
	変化なし	19	52.6	36.8	26.3	15.8	5.3	
	悪化	2	50.0	50.0	100.0	100.0	100.0	
	症状不安定	6	50.0	-	-	16.7	-	
	無回答	3	100.0	-	33.3	-	-	
仕 事 の 種 類 別	農業・林業・漁業（家族従業を含む）	7	57.1	14.3	-	42.9	14.3	
	商工サービス自営（家族従業を含む）	10	40.0	20.0	10.0	-	20.0	
	会社役員・団体役員など	1	100.0	-	100.0	-	-	
	常雇い（正社員・正職員）	19	42.1	31.6	47.4	10.5	26.3	
	臨時・パート・アルバイトなど	22	59.1	22.7	4.5	13.6	4.5	
	授産施設・共同作業所など	6	83.3	16.7	33.3	16.7	16.7	
	その他	4	100.0	25.0	-	-	-	
	無回答	1	-	-	-	-	-	

	調査数「n」 (人)	仕 事 の 内 容 が 自 分 に あ わ な い	障 害 に 差 が あ る 内 容 と 比 べ 進 む	帯 勤 が 自 分 の あ わ な い 時 間	た め 障 害 者 の 設 備 が 不 十 分 な い	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全 体	70	7.1	7.1	4.3	1.4	8.6	17.1	1.4
別 現 在 の 症 状	回復	40	5.0	5.0	2.5	-	7.5	25.0
	変化なし	19	10.5	10.5	5.3	-	5.3	5.3
	悪化	2	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	-
	症状不安定	6	-	-	-	-	16.7	16.7
	無回答	3	-	-	-	-	-	16.7
仕 事 の 種 類 別	農業・林業・漁業（家族従業を含む）	7	14.3	14.3	-	-	14.3	-
	商工サービス自営（家族従業を含む）	10	-	10.0	-	-	10.0	40.0
	会社役員・団体役員など	1	-	-	-	-	-	-
	常雇い（正社員・正職員）	19	10.5	10.5	10.5	-	5.3	-
	臨時・パート・アルバイトなど	22	-	-	-	-	9.1	31.8
	授産施設・共同作業所など	6	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7
	その他	4	25.0	-	-	-	-	-
	無回答	1	-	-	-	-	-	100.0

(6) 仕事をしていない理由

問13-5 (仕事をしていない方のみお答えください) 仕事をしていないのは、主にどのような理由によりますか。(〇は1つだけ)

【図表 3-3-39 仕事をしていない理由】(n=166)



仕事をしていない理由は、「症状が重く仕事ができない」(30.1%)が最も多く、次いで「家事をしている」(20.5%)、「症病や障害にあった適当な仕事がない」(14.5%)となっている。

性別にみると、男女とも「症状が重く仕事ができない」が最も多いが、男性は女性に比べて「症病や障害にあった適当な仕事がない」(22.0%)や「特に理由はない」(10.2%)の割合が高く、女性は男性に比べて「家事をしている」(29.5%)の割合が高い。

年齢別にみると、40歳代では「症病や障害にあった適当な仕事がない」(26.5%)が最も多い。

現在の症状別にみると、回復傾向にある人では「家事をしている」が最も多いが、その他の症状の人では「症状が重く仕事ができない」が最も多い。

また、症状に変化がみられない人では他に比べて「疾病や障害にあった適当な仕事がない」(22.2%)の割合が高い。

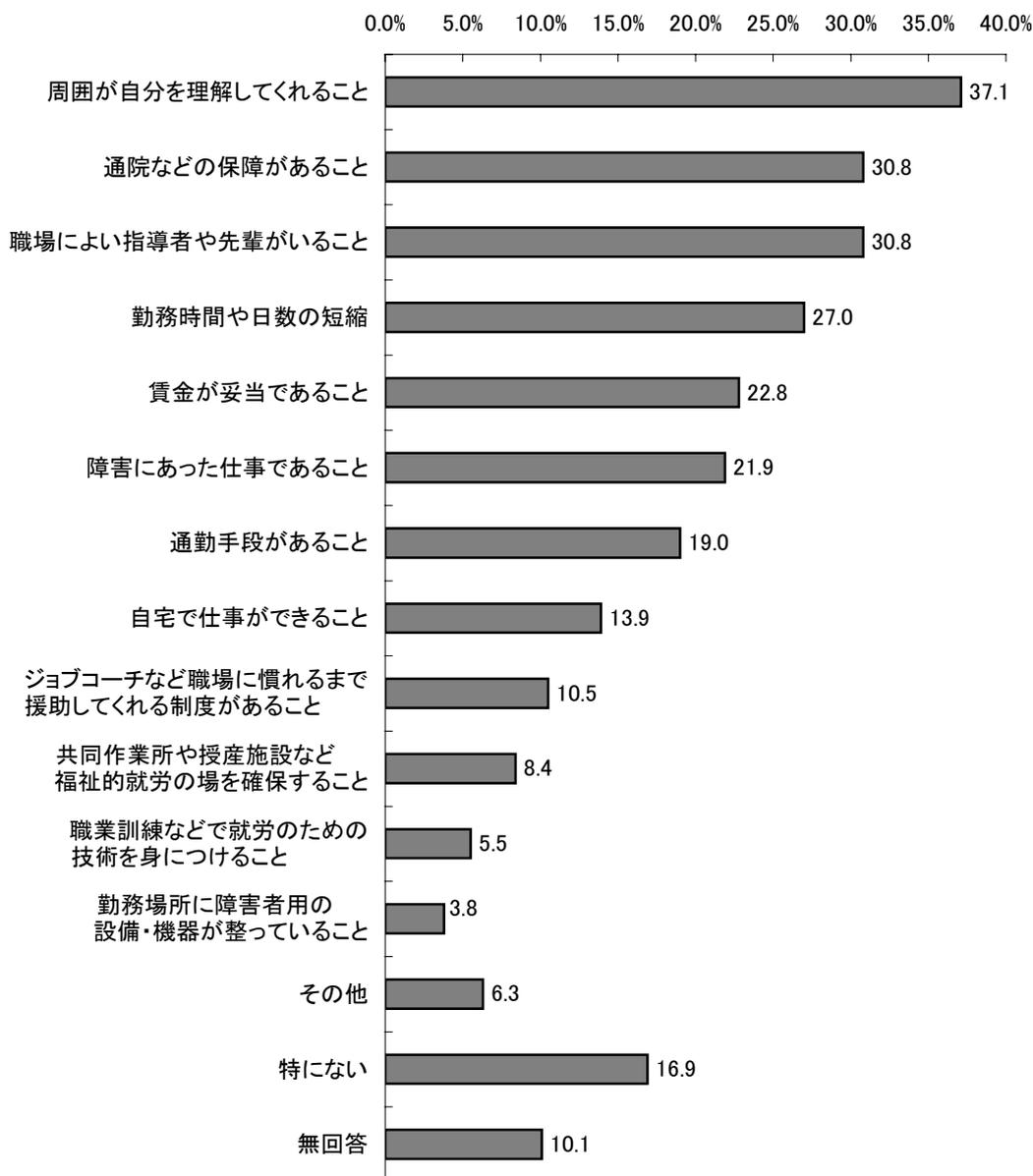
【図表 3-3-40 性別・年齢別・現在の症状別 仕事をしていない理由】(%)

		調査数「n」 (人)	な い 症 状 が 重 く 仕 事 が で き	家 事 を し て い る	当 病 や 障 害 に あ っ た 適 当 な 仕 事 が な い	な い 仕 事 を し よ う と は 思 わ ない	在 学 中 で あ る	求 職 中 で あ る	な い 職 業 訓 練 を 行 う 機 会 が	そ の 他	特 に 理 由 は な い	無 回 答
全	体	166	30.1	20.5	14.5	9.0	5.4	4.2	-	7.8	6.0	2.4
性 別	男性	59	30.5	5.1	22.0	8.5	5.1	3.4	-	8.5	10.2	6.8
	女性	105	30.5	29.5	9.5	8.6	5.7	4.8	-	7.6	3.8	-
	無回答	2	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-
年 齢 別	17歳以下	8	-	-	-	-	87.5	-	-	12.5	-	-
	18～29歳	22	50.0	9.1	9.1	4.5	9.1	13.6	-	4.5	-	-
	30～39歳	16	31.3	25.0	18.8	12.5	-	6.3	-	6.3	-	-
	40～49歳	34	20.6	23.5	26.5	11.8	-	5.9	-	5.9	5.9	-
	50～59歳	38	36.8	34.2	13.2	10.5	-	-	-	2.6	-	2.6
	60～64歳	14	42.9	21.4	14.3	14.3	-	-	-	-	7.1	-
	65歳以上	29	24.1	10.3	3.4	3.4	-	-	-	24.1	24.1	10.3
	無回答	5	-	20.0	40.0	20.0	-	20.0	-	-	-	-
別 現 在 の 症 状	回復	76	17.1	22.4	10.5	10.5	9.2	7.9	-	7.9	11.8	2.6
	変化なし	45	40.0	15.6	22.2	6.7	4.4	-	-	6.7	2.2	2.2
	悪化	12	75.0	8.3	8.3	8.3	-	-	-	-	-	-
	症状不安定	29	31.0	27.6	13.8	10.3	-	3.4	-	10.3	-	3.4
	無回答	4	25.0	25.0	25.0	-	-	-	-	25.0	-	-

(7) 仕事をする上で必要な条件整備

問14 (仕事をしている方もしていない方もお答えください) あなたが仕事をするうえで、どのような条件整備が必要ですか。(〇はあてはまるものすべて)

【図表 3-3-41 仕事をする上で必要な条件整備】(n=237)



仕事をする上で必要な条件整備は、「周囲が自分を理解してくれること」(37.1%)が最も多く、次いで、「通院などの保障があること」(30.8%)、「職場によい指導者や先輩がいること」(30.8%)、「勤務時間や日数の短縮」(27.0%)となっている。

現在の症状別にみると、症状に変化が見られない人では他に比べて「通院などの保障があること」(43.8%)の割合が高く、症状が不安定な人では「周囲が自分を理解してくれること」(42.9%)の割合が高い。また、悪化傾向にある人では他に比べて「職業訓練などで就労のための技術を身につけること」(21.4%)や「ジョブコーチなど職場に慣れるまで援助してくれる制度があること」(28.6%)、「共同作業所や授産施設など福祉的就労の場を確保すること」(21.4%)などの割合が高い。

就労状況別にみると、仕事をしている人では「職場によい指導者や先輩がいること」(41.4%)が最も多く、4割を超えている。

【図表 3-3-42 現在の症状別・就労状況別 仕事をする上で必要な条件整備】(%)

		調査数「n」(人)	周囲が自分を理解して くれること	通院などの保障がある こと	職場によい指導者や先 輩がいること	勤務時間や日数の短縮	賃金が妥当であること	障害にあった仕事であ ること	通勤手段があること
全 体		237	37.1	30.8	30.8	27.0	22.8	21.9	19.0
別 現 在 の 症 状	回復	116	37.9	24.1	29.3	25.9	23.3	18.1	19.0
	変化なし	64	39.1	43.8	32.8	32.8	23.4	26.6	20.3
	悪化	14	28.6	35.7	35.7	35.7	21.4	35.7	21.4
	症状不安定	35	42.9	31.4	34.3	22.9	25.7	22.9	17.1
	無回答	8	-	12.5	12.5	-	-	12.5	12.5
況 就 別 労 状	仕事をしている	70	38.6	21.4	41.4	22.9	25.7	17.1	11.4
	仕事をしていない	166	36.7	34.9	26.5	28.9	21.7	24.1	22.3
	無回答	1	-	-	-	-	-	-	-

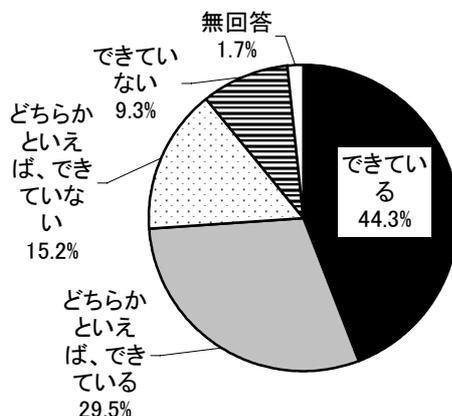
		調査数「n」(人)	と 自 宅 で 仕 事 が で き る こ と	く ジョ レ ッ 慣 れ る コ 制 ー 度 チ が ン あ ン る ン 助 ン こ ン し ン て ン 職 ン 場 ン	確 共 保 同 す 作 る 業 こ 所 と 授 の 産 場 施 を 設 を 設	る た め 職 の 業 技 訓 術 練 を 等 身 ン に ン 就 ン つ ン け ン	る 設 こ 備 と 務 機 場 器 所 が に 整 障 つ 害 て 者 用 ン の ン	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全 体		237	13.9	10.5	8.4	5.5	3.8	6.3	16.9	10.1
別 現 在 の 症 状	回復	116	12.1	7.8	6.9	1.7	2.6	4.3	19.8	8.6
	変化なし	64	14.1	10.9	7.8	4.7	4.7	7.8	12.5	9.4
	悪化	14	21.4	28.6	21.4	21.4	7.1	14.3	35.7	-
	症状不安定	35	17.1	14.3	11.4	11.4	5.7	5.7	11.4	11.4
	無回答	8	12.5	-	-	12.5	-	12.5	-	50.0
況 就 別 労 状	仕事をしている	70	8.6	10.0	8.6	7.1	2.9	8.6	15.7	8.6
	仕事をしていない	166	16.3	10.8	8.4	4.8	4.2	5.4	17.5	10.2
	無回答	1	-	-	-	-	-	-	-	100.0

4. 外出について

(1) 外出の状況

問15 あなたは、ふだん、外出したいと思うところに、外出できていますか。(○は1つだけ)

【図表 3-3-43 外出の状況】(n=237)



外出したいと思うところに外出できているかという問に対しては、「できている」(44.3%)が最も多く、次いで「どちらかといえば、できている」(29.5%)となっており、これらをあわせると、希望どおりに外出できている人が全体の7割強(73.8%)を占めている。一方、「どちらかといえば、できていない」(15.2%)・「できていない」(9.3%)をあわせた、希望どおりに外出できていない人は24.5%となっている。

現在の症状別にみると、回復傾向にある人や症状に変化がない人では「できている」が最も多く、症状が不安定な人では「どちらかといえば、できている」が最も多くなっており、これらの層では、希望どおりに外出できている人(「できている」+「どちらかといえば、できている」)が6割以上となっている。一方、悪化傾向にある人では「できていない」(57.1%)が半数を超えており、希望どおりに外出できていない人(「どちらかといえば、できていない」+「できていない」)が8割(78.5%)を占めている。

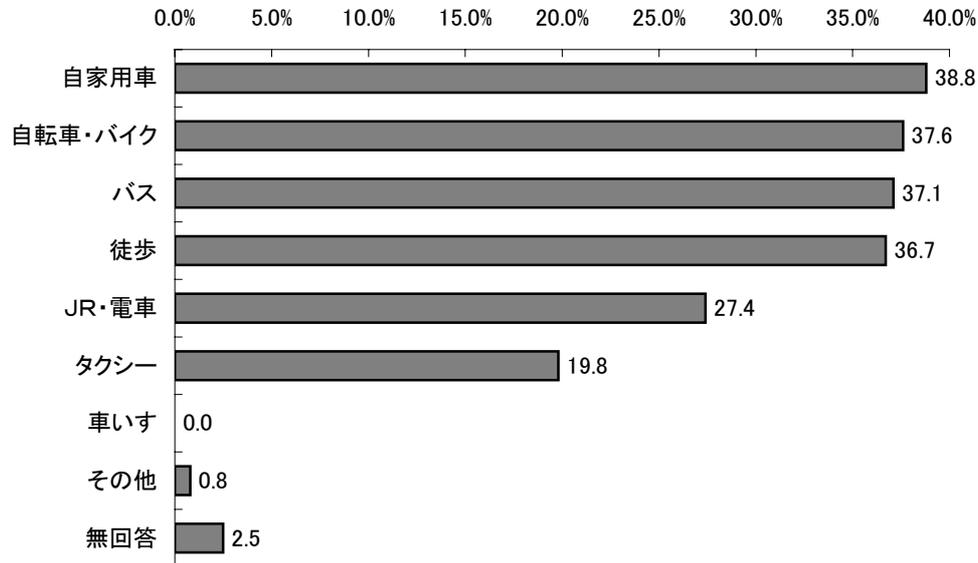
【図表 3-3-44 現在の症状別 外出の状況】(%)

		調査数「n」 (人)	できている	できど てち いら るか とい え ば、 で	できど てち いら なか とい え ば、 で	できて いな い	無 回 答
全 体		237	44.3	29.5	15.2	9.3	1.7
別現 在の 症 状	回復	116	62.1	27.6	7.8	1.7	0.9
	変化なし	64	32.8	31.3	21.9	12.5	1.6
	悪化	14	-	21.4	21.4	57.1	-
	症状不安定	35	22.9	40.0	25.7	8.6	2.9
	無回答	8	50.0	12.5	12.5	12.5	12.5

(2) 外出時の移動手段

問16 外出の時の移動手段は何ですか。(〇はあてはまるものすべて)

【図表 3-3-45 外出時の移動手段】(n=237)



外出時の移動手段では、「自家用車」(38.8%)が最も多く、次いで「自転車・バイク」(37.6%)、「バス」(37.1%)、「徒歩」(36.7%)となっている。

【図表 3-3-46 現在の症状別 外出時の移動手段】(%)

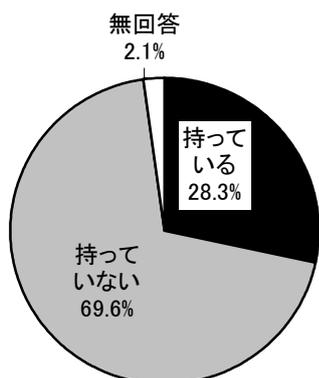
		調査数「n」 (人)	自家用車	自転車・バイク	バス	徒歩	JR・電車	タクシー	車いす	その他	無回答
全体		237	38.8	37.6	37.1	36.7	27.4	19.8	-	0.8	2.5
別現在の 症状	回復	116	45.7	38.8	37.9	37.1	30.2	21.6	-	-	0.9
	変化なし	64	32.8	35.9	40.6	35.9	26.6	12.5	-	1.6	3.1
	悪化	14	50.0	21.4	21.4	21.4	35.7	14.3	-	7.1	-
	症状不安定	35	22.9	45.7	37.1	48.6	20.0	31.4	-	-	2.9
	無回答	8	37.5	25.0	25.0	12.5	12.5	12.5	-	-	25.0

5. 福祉サービスについて

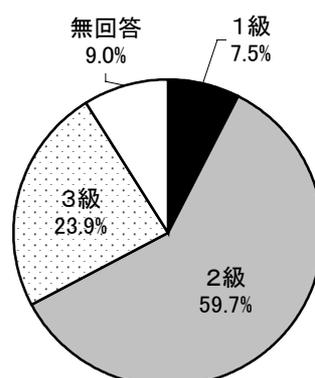
(1) 精神障害者保健福祉手帳の有無

問17 あなたは「精神障害者保健福祉手帳」を持っていますか。
 問17-1 (精神障害者保健福祉手帳を持っている方のみお答えください)「精神障害者保健福祉手帳」による等級は次のどれですか。

【図表 3-3-47 精神障害者保健福祉手帳の有無】(n=237)



【図表 3-3-48 精神障害者保健福祉手帳の等級】(n=67)



精神障害者保健福祉手帳所持者は3割弱(28.3%)である。手帳所持者の等級は「2級」(59.7%)が6割と最も多く、次いで「3級」(23.9%)、「1級」(7.5%)となっている。

年齢別にみると、手帳所持者の割合は40歳代(40.0%)や30歳代(36.4%)で高い。

現在の症状別にみると、手帳所持者の割合は、症状が不安定な人(51.4%)や症状に変化が見られない人(37.5%)で高い。

【図表 3-3-49 性別・年齢別・現在の症状別 精神障害者保健福祉手帳の有無】(%)

		調査数「n」 (人)	持っている	持っていない	無回答
全体		237	28.3	69.6	2.1
性別	男性	107	30.8	67.3	1.9
	女性	126	25.4	73.0	1.6
	無回答	4	50.0	25.0	25.0
年齢別	17歳以下	8	-	100.0	-
	18~29歳	33	15.2	84.8	-
	30~39歳	33	36.4	60.6	3.0
	40~49歳	50	40.0	56.0	4.0
	50~59歳	54	33.3	64.8	1.9
	60~64歳	22	31.8	68.2	-
	65歳以上	30	10.0	90.0	-
	無回答	7	28.6	57.1	14.3
現在の症状別	回復	116	18.1	80.2	1.7
	変化なし	64	37.5	60.9	1.6
	悪化	14	14.3	85.7	-
	症状不安定	35	51.4	45.7	2.9
	無回答	8	25.0	62.5	12.5

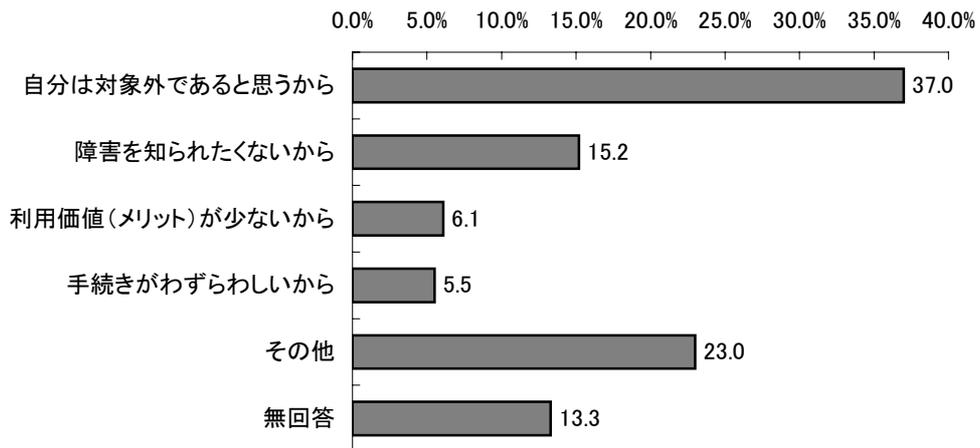
【図表 3-3-50 性別・年齢別・現在の症状別 精神障害者保健福祉手帳の等級】(%)

		調査数 「人」 (人)	1 級	2 級	3 級	無 回 答
全 体		67	7.5	59.7	23.9	9.0
性 別	男性	33	9.1	48.5	30.3	12.1
	女性	32	6.3	68.8	18.8	6.3
	無回答	2	-	100.0	-	-
年 齢 別	17歳以下	-	-	-	-	-
	18～29歳	5	-	60.0	20.0	20.0
	30～39歳	12	8.3	66.7	25.0	-
	40～49歳	20	10.0	70.0	20.0	-
	50～59歳	18	5.6	61.1	22.2	11.1
	60～64歳	7	14.3	28.6	28.6	28.6
	65歳以上	3	-	-	66.7	33.3
	無回答	2	-	100.0	-	-
別 現 在 の 症 状	回復	21	4.8	71.4	23.8	-
	変化なし	24	8.3	54.2	25.0	12.5
	悪化	2	-	50.0	50.0	-
	症状不安定	18	11.1	50.0	22.2	16.7
	無回答	2	-	100.0	-	-

(2) 精神障害者保健福祉手帳を持っていない理由

問 17-2 (精神障害者保健福祉手帳を持っていない方のみお答えください) 精神障害者保健福祉手帳を持っていない主な理由は何ですか。(○は1つだけ)

【図表 3-3-51 精神障害者保健福祉手帳を持っていない理由】(n=165)



精神障害者保健福祉手帳を持っていない理由は、「自分に対象外であると思うから」(37.0%)が最も多く、次いで「障害を知られたくないから」(15.2%)となっている。また、「その他」も23.0%を占めており、その回答のほとんどが「手帳があることを知らなかったから」であった。

現在の症状別にみると、回復傾向にある人や症状が不安定な人では他に比べて「自分に対象外であると思うから」の割合が高い。

第3章 調査結果[精神障害者調査]

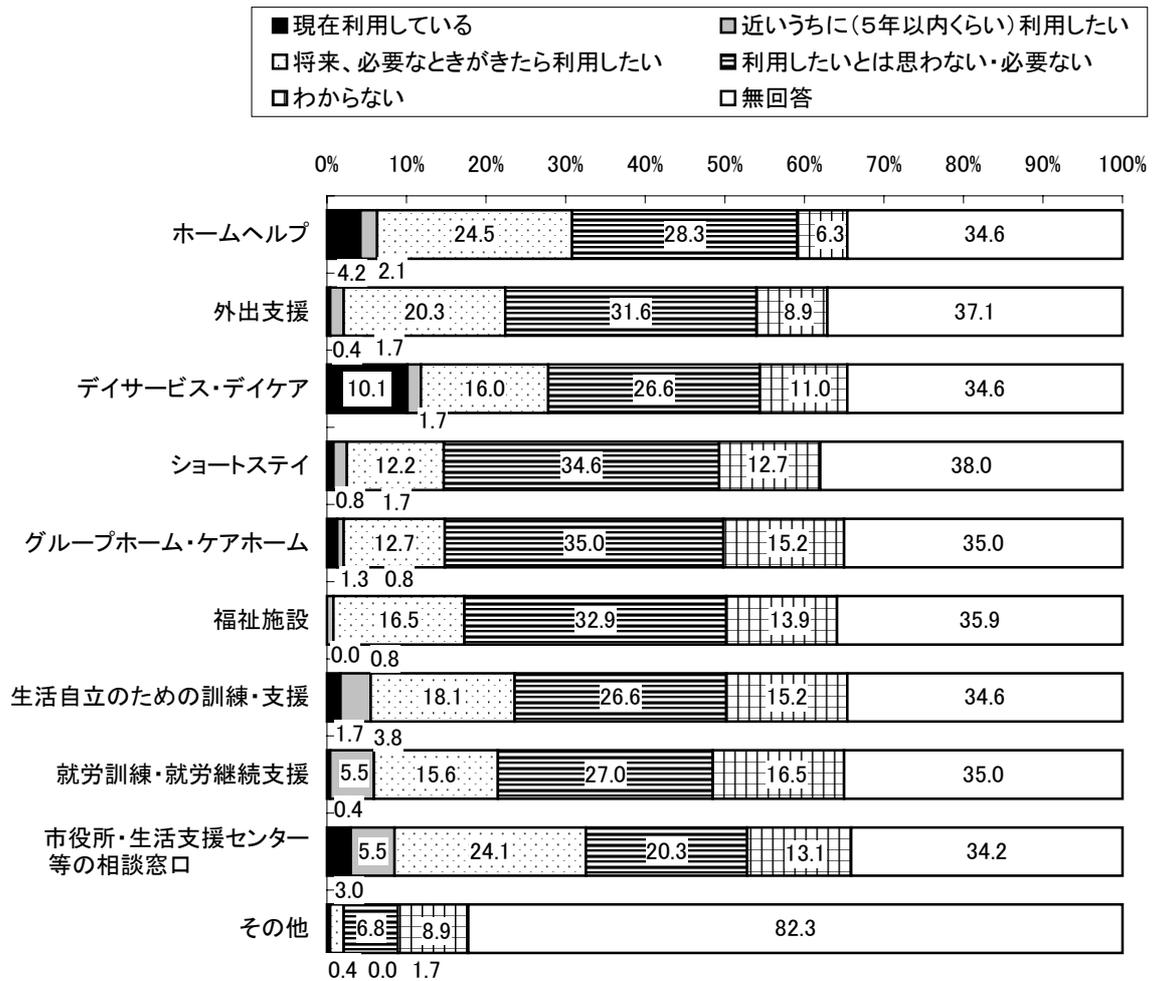
【図表 3-3-52 性別・年齢別・現在の症状別 精神障害者保健福祉手帳を持っていない理由】(%)

	調査数「n」(人)	自分から 思うから 対象外であると	障害を 知られた くない	利用価値 が少ない から(メリ ット)	手続きが わずらわ しい	その他	無回答	
全体	165	37.0	15.2	6.1	5.5	23.0	13.3	
性別	男性	72	33.3	23.6	6.9	9.7	13.9	12.5
	女性	92	40.2	8.7	4.3	2.2	30.4	14.1
	無回答	1	-	-	100.0	-	-	-
年齢別	17歳以下	8	25.0	-	12.5	-	37.5	25.0
	18～29歳	28	28.6	21.4	7.1	7.1	28.6	7.1
	30～39歳	20	40.0	15.0	10.0	10.0	5.0	20.0
	40～49歳	28	32.1	17.9	7.1	3.6	25.0	14.3
	50～59歳	35	45.7	8.6	5.7	2.9	22.9	14.3
	60～64歳	15	53.3	20.0	-	-	13.3	13.3
	65歳以上	27	33.3	14.8	-	11.1	29.6	11.1
無回答	4	25.0	25.0	25.0	-	25.0	-	
別現在の 症状	回復	93	43.0	15.1	6.5	4.3	19.4	11.8
	変化なし	39	25.6	15.4	10.3	7.7	25.6	15.4
	悪化	12	16.7	16.7	-	8.3	41.7	16.7
	症状不安定	16	43.8	18.8	-	6.3	25.0	6.3
	無回答	5	40.0	-	-	-	20.0	40.0

(3) 福祉サービスの利用状況・利用意向

問18 ①～⑩の福祉サービスについて、あてはまるものにそれぞれ1つだけ○をつけてください。①～④のサービスで「1（現在利用している）」または「2（近いうちに[5年以内くらい]利用したい）」に○をつけた方は、利用している、または利用したいと思うサービス日数や時間数を記入してください。

【図表 3-3-53 福祉サービスの利用状況・利用意向】(n=237)



現在実施されている、もしくは、今後、障害者自立支援法により新たに導入される予定の福祉サービスについて、利用状況と利用意向をたずねたが、いずれも3～4割弱が無回答であった。

利用意向（「近いうちに（5年以内くらい）利用したい」＋「将来、必要なときがきたら利用したい」）は、「市役所・生活支援センター等の相談窓口」（29.5％）で最も高く、次いで「ホームヘルプ」（26.6％）、「外出支援」（21.9％）、「生活自立のための訓練・支援」（21.9％）、「就労訓練・就労継続支援」（21.1％）となっている。

利用意向を年齢別にみると、18歳～30歳代では他の年齢層に比べて「就労訓練・就労継続支援」の割合が高く、3割を超えている。

現在の症状別にみると、悪化傾向にある人は他の状態像の人に比べて、全項目において利用意向が高い。

第3章 調査結果[精神障害者調査]

【図表 3-3-54 年齢別・現在の症状別 福祉サービスの利用意向（「近いうちに（5年以内くらい）利用したい」「将来、必要なときがきたら利用したい」の合計値）】（%）

		調査数「n」 （人）	ホームヘルプ	外出支援	ア デ イ サ ー ビ ス ・ デ イ ケ	シ ョ ー ト ス テ イ	ホ グ ル ー プ ホ ー ム ・ ケ ア
全 体		237	26.6	21.9	17.7	13.9	13.5
年 齢 別	17歳以下	8	12.5	12.5	12.5	12.5	-
	18～29歳	33	21.2	18.2	21.2	18.2	18.2
	30～39歳	33	24.2	18.2	15.2	15.2	15.2
	40～49歳	50	20.0	18.0	12.0	8.0	4.0
	50～59歳	54	27.8	22.2	20.4	13.0	22.2
	60～64歳	22	50.0	40.9	27.3	22.7	18.2
	65歳以上	30	33.3	26.7	13.3	13.3	6.7
	無回答	7	14.3	14.3	28.6	14.3	14.3
別 現 在 の 症 状	回復	116	22.4	18.1	12.9	10.3	10.3
	変化なし	64	25.0	20.3	14.1	9.4	14.1
	悪化	14	50.0	42.9	50.0	57.1	57.1
	症状不安定	35	34.3	31.4	31.4	17.1	8.6
	無回答	8	25.0	12.5	-	12.5	-

		調査数「n」 （人）	福 祉 施 設	練 生 活 自 立 の た め の 訓	援 就 労 訓 練 ・ 就 労 継 続 支	市 役 所 の 相 談 窓 口	そ の 他	無 回 答
全 体		237	17.3	21.9	21.1	29.5	1.7	51.5
年 齢 別	17歳以下	8	-	-	-	25.0	12.5	75.0
	18～29歳	33	21.2	24.2	36.4	33.3	-	51.5
	30～39歳	33	15.2	21.2	33.3	42.4	3.0	36.4
	40～49歳	50	6.0	24.0	22.0	22.0	-	64.0
	50～59歳	54	18.5	25.9	25.9	24.1	1.9	50.0
	60～64歳	22	36.4	36.4	9.1	40.9	-	36.4
	65歳以上	30	23.3	10.0	-	26.7	3.3	53.3
	無回答	7	14.3	-	-	28.6	-	57.1
別 現 在 の 症 状	回復	116	11.2	17.2	20.7	29.3	0.9	55.2
	変化なし	64	15.6	20.3	18.8	25.0	3.1	56.3
	悪化	14	57.1	42.9	42.9	57.1	7.1	14.3
	症状不安定	35	22.9	31.4	22.9	28.6	-	40.0
	無回答	8	25.0	25.0	-	25.0	-	75.0

(4) ホームヘルプの利用状況・利用意向

【図表 3-3-55 ホームヘルプの利用時間数・利用希望時間数】(人)

	調査数 「n」	週 1 ～ 1 0 時間	週 1 ～ 2 0 時間	週 2 ～ 3 0 時間	週 3 ～ 4 0 時間	週 4 ～ 1 時間 以上	無 回 答
現在の利用時間数	10	9	1	-	-	-	-
利用希望時間数	5	4	1	-	-	-	-

ホームヘルプ利用者の現在の利用時間数は、「週1～10時間」(9人)が最も多く、利用希望者の希望時間数でも「週1～10時間」(4人)が最も多い。

(5) 外出支援の利用状況・利用意向

【図表 3-3-56 外出支援の利用日数・利用希望日数】(人)

	調査数 「n」	月 1 ～ 5 日	月 6 ～ 1 0 日	月 1 1 ～ 1 5 日	月 1 6 ～ 2 0 日	月 2 1 日 以上	無 回 答
現在の利用日数	1	-	-	-	-	-	1
利用希望日数	4	2	1	-	-	1	-

外出支援利用者は1人であり。現在の利用日数は無回答であった。利用希望者の希望日数では「月1～5日」(2人)が最も多い。

(6) デイサービス・デイケアの利用状況・利用意向

【図表 3-3-57 デイサービス・デイケアの利用日数・利用希望日数】(人)

	調査数 [n]	月 1 ～ 5 日	月 6 ～ 1 0 日	月 1 1 ～ 1 5 日	月 1 6 ～ 2 0 日	月 2 1 日 以上	無 回 答
現在の利用日数	24	9	4	-	6	5	-
利用希望日数	4	1	1	1	1	-	-

通所サービス利用者の現在の利用日数は、「月1～5日」(9人)が最も多い。利用希望者の希望日数では「月1～5日」「月6～10日」「月11～15日」「月16～20日」がそれぞれ1人ずつとなっている。

(7) ショートステイの利用状況・利用意向

【図表 3-3-58 ショートステイの利用日数・利用希望日数】(人)

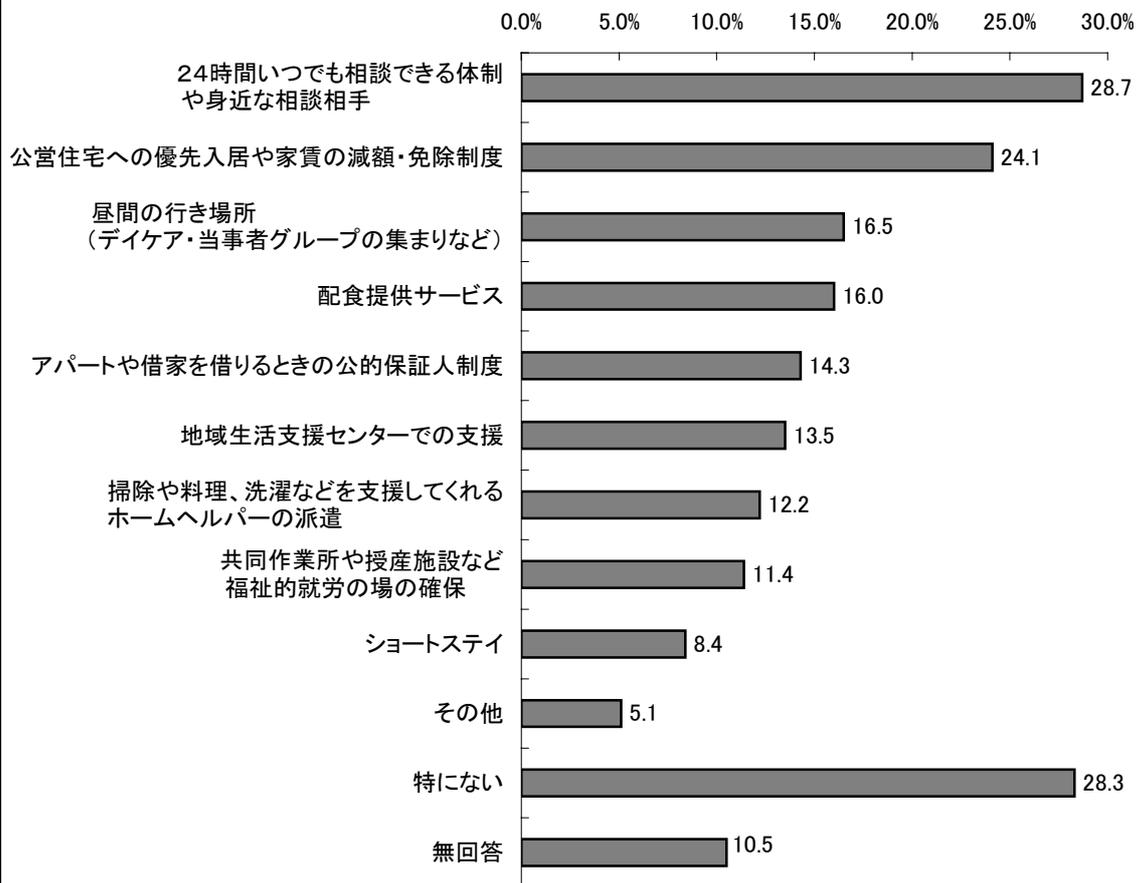
	調査数 [n]	月 1 ～ 5 日	月 6 ～ 1 0 日	月 1 1 ～ 1 5 日	月 1 6 ～ 2 0 日	月 2 1 日 以上	無 回 答
現在の利用日数	2	-	1	1	-	-	-
利用希望日数	4	4	-	-	-	-	-

ショートステイ利用者の現在の利用日数は、「月6～10日」「月11～15日」であり、利用希望者の希望日数では全員が「月1～5日」と回答している。

(8) 充実した生活を送るために必要な支援

問19 今後、あなたがさらに充実した生活を送るためには、どのような支援が必要だと思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

【図表 3-3-59 充実した生活を送るために必要な支援】(n=237)



充実した生活を送るために必要な支援は、「24 時間いつでも相談できる体制や身近な相談相手」(28.7%) が最も多く、次いで「公営住宅への優先入居や家賃の減額・免除制度」(24.1%)、「昼間の行き場所 (デイケア・当事者グループの集まりなど)」(16.5%)、「配食提供サービス」(16.0%) となっている。また、「特にない」も 28.3% となっている。

年齢別にみると、30 歳代では他の年齢層に比べて「地域生活支援センターでの支援」(21.2%) や「共同作業所や授産施設など福祉的就労の場の確保」(21.2%) の割合が高く、65 歳以上では「昼間の行き場所 (デイケア・当事者グループの集まりなど)」(30.0%) や「配食提供サービス」(30.0%) の割合が高い。

現在の症状別にみると、回復傾向にある人では「特にない」(35.3%) が最も多いが、症状に変化が見られない人では「24 時間いつでも相談できる体制や身近な相談相手」(40.6%) が最も多く、悪化傾向にある人では「昼間の行き場所 (デイケア・当事者グループの集まりなど)」(57.1%) が最も多い。

また、悪化傾向にある人では他に比べて全般的に割合が高く、「昼間の行き場所 (デイケア・当事者グループの集まりなど)」(57.1%) や「アパートや借家を借りるときの公的保証人制度」(35.7%)、「地域生活支援センターでの支援」(35.7%)、「共同作業所や授産施設など福祉的就労の場の確保」(35.7%) などで顕著である。

第3章 調査結果[精神障害者調査]

【図表 3-3-60 性別・年齢別・現在の症状別 充実した生活を送るために必要な支援】(%)

		調査数「n」(人)	で24時間いつでも身近な相談	度や公営住宅への優先入居	の集まりなど)	配食提供サービス	度るときの公的保証人制	で地域の生活支援センター
全体		237	28.7	24.1	16.5	16.0	14.3	13.5
性別	男性	107	27.1	28.0	18.7	17.8	19.6	14.0
	女性	126	31.0	21.4	15.1	14.3	10.3	13.5
	無回答	4	-	-	-	25.0	-	-
年齢別	17歳以下	8	12.5	12.5	25.0	12.5	-	12.5
	18～29歳	33	36.4	33.3	12.1	15.2	27.3	15.2
	30～39歳	33	36.4	33.3	15.2	9.1	18.2	21.2
	40～49歳	50	30.0	32.0	16.0	8.0	22.0	8.0
	50～59歳	54	27.8	14.8	11.1	16.7	7.4	14.8
	60～64歳	22	22.7	22.7	22.7	22.7	9.1	9.1
	65歳以上	30	20.0	13.3	30.0	30.0	6.7	13.3
	無回答	7	28.6	14.3	-	28.6	-	14.3
別現在の症状	回復	116	21.6	23.3	12.1	14.7	11.2	12.1
	変化なし	64	40.6	23.4	15.6	18.8	15.6	14.1
	悪化	14	42.9	35.7	57.1	21.4	35.7	35.7
	症状不安定	35	28.6	25.7	14.3	11.4	17.1	8.6
	無回答	8	12.5	12.5	25.0	25.0	-	12.5

		調査数「n」(人)	ムを掃除や料理、洗濯などをヘルパーの派遣	確保など福祉的就労の場の	ショートステイ	その他	特にな	無回答
全体		237	12.2	11.4	8.4	5.1	28.3	10.5
性別	男性	107	12.1	15.9	10.3	3.7	28.0	10.3
	女性	126	12.7	7.9	7.1	5.6	28.6	10.3
	無回答	4	-	-	-	25.0	25.0	25.0
年齢別	17歳以下	8	-	-	25.0	-	75.0	-
	18～29歳	33	9.1	15.2	15.2	12.1	24.2	9.1
	30～39歳	33	15.2	21.2	9.1	6.1	21.2	15.2
	40～49歳	50	10.0	10.0	4.0	2.0	26.0	8.0
	50～59歳	54	11.1	13.0	3.7	1.9	31.5	14.8
	60～64歳	22	18.2	13.6	4.5	-	40.9	-
	65歳以上	30	16.7	-	16.7	10.0	20.0	13.3
	無回答	7	14.3	-	-	14.3	14.3	14.3
別現在の症状	回復	116	9.5	11.2	7.8	3.4	35.3	10.3
	変化なし	64	17.2	7.8	9.4	6.3	20.3	7.8
	悪化	14	14.3	35.7	21.4	14.3	14.3	-
	症状不安定	35	8.6	11.4	2.9	5.7	28.6	11.4
	無回答	8	25.0	-	12.5	-	12.5	50.0

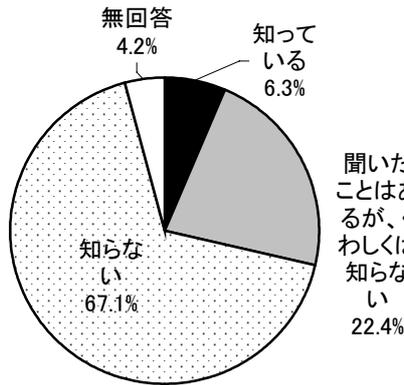
(9) 権利擁護関連制度の認知度・利用意向

問20 障害がある方が、地域で自立して生活できるように、ご本人の意思に基づいて、福祉サービスの利用手続きや生活費・財産管理のお手伝いなどをする制度として、「地域福祉権利擁護事業」や「成年後見制度」があります。あなたはこのような制度や事業をご存知ですか。(○は1つだけ)

問21 「地域福祉権利擁護事業」や「成年後見制度」を利用したいと思いますか。(○は1つだけ)

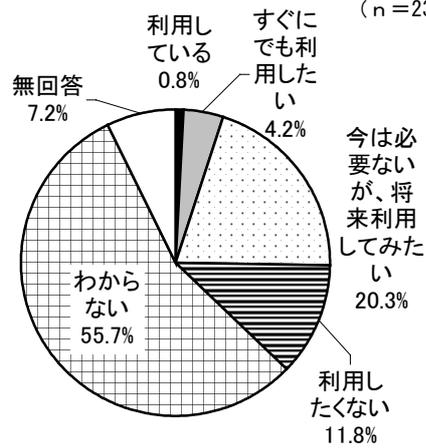
【図表 3-3-61 権利擁護関連制度の認知度】

(n=237)



【図表 3-3-62 権利擁護関連制度の利用意向】

(n=237)



「地域福祉権利擁護事業」や「成年後見制度」等の判断能力が不十分な知的・精神障害者等の権利擁護に関する制度について、認知度と利用意向をたずねた。

これらの権利擁護関連制度の認知度では、「知らない」(67.1%)が6割を超えて最も多く、次いで「聞いたことはあるが、くわしくは知らない」(22.4%)となっており、「知っている」(6.3%)は1割に満たない。

利用意向では「わからない」(55.7%)が半数を超えて最も多く、次いで「今は必要ないが、将来利用してみたい」(20.3%)となっている。また、「利用している」は0.8%、「すぐにでも利用したい」は4.2%となっている。

現在の症状別に利用意向をみると、悪化傾向にある人では他に比べて「すぐにでも利用したい」(14.3%)の割合が高い。

【図表 3-3-63 年齢別・現在の症状別 権利擁護関連制度の認知度】(%)

		(調査人数「n」)	知っている	聞いたことがないが、くわしくは知らない	知らない	無回答
全体		237	6.3	22.4	67.1	4.2
年齢別	17歳以下	8	-	25.0	75.0	-
	18～29歳	33	3.0	12.1	81.8	3.0
	30～39歳	33	3.0	27.3	63.6	6.1
	40～49歳	50	6.0	26.0	60.0	8.0
	50～59歳	54	7.4	18.5	72.2	1.9
	60～64歳	22	9.1	40.9	50.0	-
	65歳以上	30	13.3	16.7	66.7	3.3
無回答		7	-	14.3	71.4	14.3
現在の症状別	回復	116	8.6	20.7	68.1	2.6
	変化なし	64	3.1	23.4	71.9	1.6
	悪化	14	7.1	35.7	57.1	-
	症状不安定	35	2.9	22.9	65.7	8.6
	無回答	8	12.5	12.5	37.5	37.5

【図表 3-3-64 年齢別・現在の症状別 権利擁護関連制度の利用意向】(%)

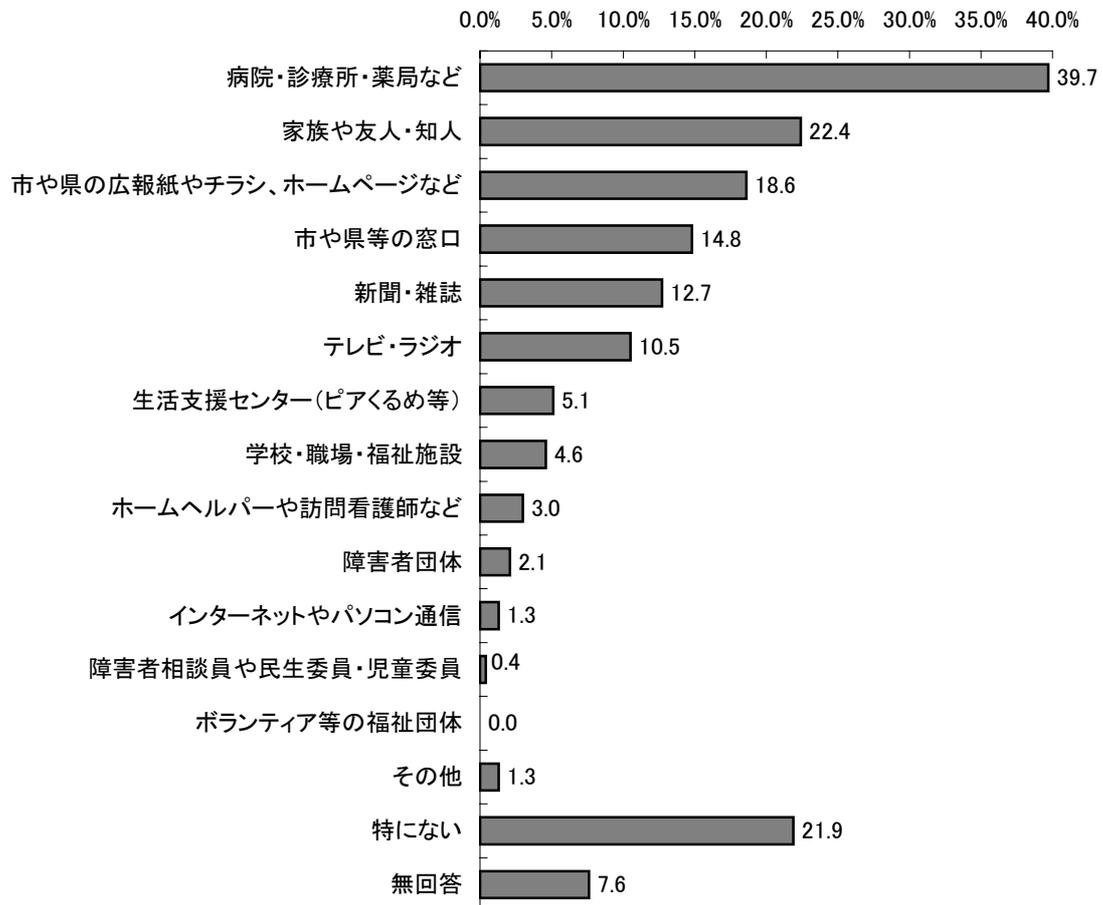
		調査数「n」 (人)	利用している	すぐにも利用したい	今は必要ないが、将来	利用したくない	わからない	無回答
全 体		237	0.8	4.2	20.3	11.8	55.7	7.2
年 齢 別	17歳以下	8	-	-	-	25.0	75.0	-
	18～29歳	33	-	6.1	12.1	15.2	63.6	3.0
	30～39歳	33	3.0	3.0	12.1	3.0	72.7	6.1
	40～49歳	50	2.0	6.0	12.0	16.0	54.0	10.0
	50～59歳	54	-	5.6	25.9	11.1	50.0	7.4
	60～64歳	22	-	-	31.8	22.7	45.5	-
	65歳以上	30	-	3.3	36.7	3.3	43.3	13.3
	無回答	7	-	-	28.6	-	57.1	14.3
別 現 在 の 症 状	回復	116	0.9	1.7	19.8	15.5	57.8	4.3
	変化なし	64	1.6	7.8	21.9	10.9	54.7	3.1
	悪化	14	-	14.3	21.4	7.1	57.1	-
	症状不安定	35	-	2.9	17.1	5.7	57.1	17.1
	無回答	8	-	-	25.0	-	25.0	50.0

6. 情報収集について

(1) 福祉に関する情報入手先

問22 福祉サービスや福祉制度の情報をどこから得ていますか。(〇はあてはまるものすべて)

【図表 3-3-65 福祉に関する情報入手先】(n=237)



福祉サービスや福祉制度に関する情報の入手先は、「病院・診療所・薬局など」(39.7%)が最も多く、次いで「家族や友人・知人」(22.4%)、「市や県の広報紙やチラシ、ホームページなど」(18.6%)となっている。

年齢別にみると、すべての年齢層において「病院・診療所・薬局など」が最も多いが、18～29歳や40歳代では「特にない」との回答も3割を超えて多い。

第3章 調査結果[精神障害者調査]

【図表 3-3-66 年齢別 福祉に関する情報入手先】(%)

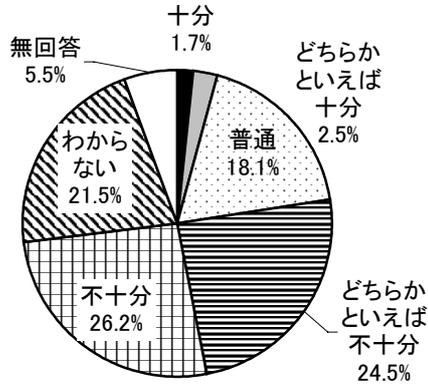
	調査数「n」 (人)	病院・診療所・薬局など	家族や友人・知人	市や県の広報紙やチラシ、ホームページなど	市や県等の窓口	新聞・雑誌	テレビ・ラジオ	生活支援センター（ピアくるめ等）	学校・職場・福祉施設	
全体	237	39.7	22.4	18.6	14.8	12.7	10.5	5.1	4.6	
年齢別	17歳以下	8	62.5	37.5	50.0	12.5	12.5	12.5	25.0	37.5
	18～29歳	33	39.4	30.3	12.1	18.2	9.1	-	6.1	9.1
	30～39歳	33	48.5	21.2	15.2	18.2	12.1	12.1	9.1	6.1
	40～49歳	50	38.0	6.0	14.0	6.0	12.0	4.0	-	-
	50～59歳	54	37.0	29.6	18.5	27.8	13.0	13.0	9.3	5.6
	60～64歳	22	36.4	22.7	22.7	13.6	18.2	13.6	-	-
	65歳以上	30	36.7	23.3	26.7	3.3	16.7	26.7	-	-
無回答	7	28.6	28.6	14.3	-	-	-	-	-	

	調査数「n」 (人)	ホームヘルパーや訪問看護師など	障害者団体	インターネットやパソコン通信	障害者相談員や民生委員・児童委員	ボランティア等の福祉団体	その他	特になし	無回答	
全体	237	3.0	2.1	1.3	0.4	-	1.3	21.9	7.6	
年齢別	17歳以下	8	-	-	-	-	-	-	-	
	18～29歳	33	3.0	6.1	3.0	-	-	30.3	3.0	
	30～39歳	33	3.0	-	-	-	-	18.2	6.1	
	40～49歳	50	6.0	-	-	-	-	32.0	10.0	
	50～59歳	54	1.9	3.7	3.7	-	-	1.9	18.5	3.7
	60～64歳	22	-	-	-	-	-	-	13.6	9.1
	65歳以上	30	3.3	3.3	-	3.3	-	6.7	13.3	16.7
無回答	7	-	-	-	-	-	-	42.9	14.3	

(2) 福祉に関する情報の入手状況

問23 福祉に関する情報を十分に入手できていますか。(○は1つだけ)

【図表 3-3-67 福祉に関する情報の入手状況】(n=237)



福祉に関する情報を十分に入手できているかについては、「不十分」(26.2%)が最も多く、次いで「どちらかといえば不十分」(24.5%)、「わからない」(21.5%)となっている。

情報が十分に入手できていないと感じている人(「どちらかといえば不十分」+「不十分」)が50.7%と半数を占めており、情報を十分に入手できていると感じている人(「十分」+「どちらかといえば十分」)の4.2%を大きく上回っている。

年齢別にみると、情報が十分に入手できていないと感じている人(「どちらかといえば不十分」+「不十分」)の割合は、30歳代(66.6%)や40歳代(60.0%)で高く、6割を超えている。

【図表 3-3-68 年齢別 福祉に関する情報の入手状況】(%)

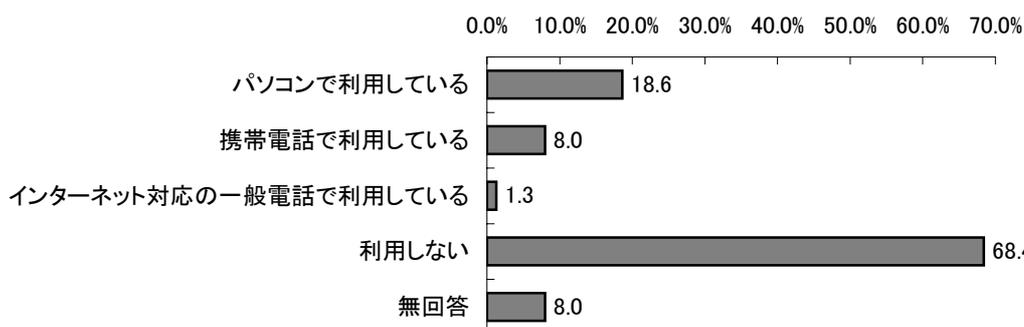
		調査数「n」(人)	十分	どちらかといえば十分	普通	どちらかといえば不十分	不十分	わからない	無回答
全体		237	1.7	2.5	18.1	24.5	26.2	21.5	5.5
年齢別	17歳以下	8	-	-	50.0	25.0	-	12.5	12.5
	18~29歳	33	-	3.0	18.2	30.3	24.2	21.2	3.0
	30~39歳	33	-	3.0	9.1	33.3	33.3	18.2	3.0
	40~49歳	50	4.0	2.0	6.0	26.0	34.0	18.0	10.0
	50~59歳	54	1.9	1.9	20.4	27.8	22.2	25.9	-
	60~64歳	22	4.5	-	40.9	18.2	18.2	18.2	-
	65歳以上	30	-	6.7	23.3	10.0	23.3	23.3	13.3
無回答		7	-	-	-	-	42.9	42.9	14.3

(3) インターネットの利用状況・利用内容

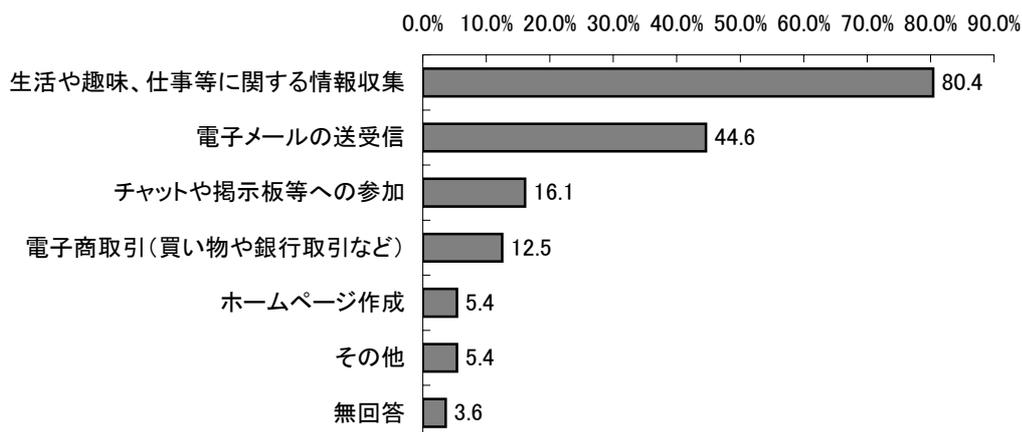
問24 家庭や職場などでインターネットを利用することがありますか。(○はあてはまるものすべて)

問24-1 (問24で1~3のいずれかを選んだ方のみお答えください) インターネットをどのようなことに利用していますか。(○はあてはまるものすべて)

【図表 3-3-69 インターネットの利用状況】(n=237)



【図表 3-3-70 インターネットの利用内容】(n=56)



インターネットの利用状況は、「利用しない」(68.4%)が7割弱と最も多く、次いで「パソコンで利用している」(18.6%)となっている。

また、インターネットの利用内容は、「生活や趣味、仕事等に関する情報収集」(80.4%)が最も多く、次いで「電子メールの送受信」(44.6%)となっている。

年齢別にみると、「パソコンで利用している」の割合は、概ね年齢が若いほど高く、「携帯電話で利用している」は18~29歳(15.2%)や30歳代(15.2%)で高い。

【図表 3-3-71 年齢別 インターネットの利用状況】(%)

		調査数「n」 (人)	パソコンで 利用してい	る携帯 電話で利 用してい	る一般 電話で利 用してい	インターネット 利用してい	利用しない	無回答
全 体		237	18.6	8.0	1.3	68.4	8.0	
年 齢 別	17歳以下	8	75.0	-	-	25.0	-	
	18～29歳	33	30.3	15.2	3.0	51.5	6.1	
	30～39歳	33	24.2	15.2	3.0	66.7	3.0	
	40～49歳	50	16.0	6.0	-	70.0	12.0	
	50～59歳	54	13.0	7.4	-	75.9	5.6	
	60～64歳	22	18.2	-	-	81.8	-	
	65歳以上	30	-	3.3	3.3	73.3	20.0	
	無回答	7	14.3	14.3	-	71.4	14.3	

【図表 3-3-72 年齢別 インターネットの利用内容】(%)

		調査数「n」 (人)	生活や 趣味、 仕事等に 関する 情報 収集	電子 メール の送 受信	チャット や 参加 掲示板 等へ	銀行 取引 など (買い 物や)	電子 商 取引 など (買い 物や)	ホーム ページ 作成	その他	無回答
全 体		56	80.4	44.6	16.1	12.5	5.4	5.4	3.6	
年 齢 別	17歳以下	6	50.0	16.7	33.3	-	-	33.3	-	
	18～29歳	14	85.7	42.9	14.3	14.3	7.1	-	-	
	30～39歳	10	90.0	60.0	20.0	-	-	-	-	
	40～49歳	9	88.9	66.7	11.1	33.3	-	-	-	
	50～59歳	10	70.0	40.0	20.0	10.0	10.0	10.0	20.0	
	60～64歳	4	75.0	25.0	-	25.0	25.0	-	-	
	65歳以上	2	100.0	-	-	-	-	-	-	
	無回答	1	100.0	100.0	-	-	-	-	-	

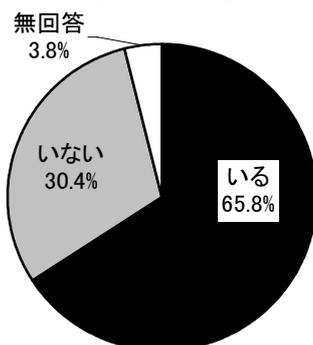
7. 災害対策について

(1) 災害時に頼れる人

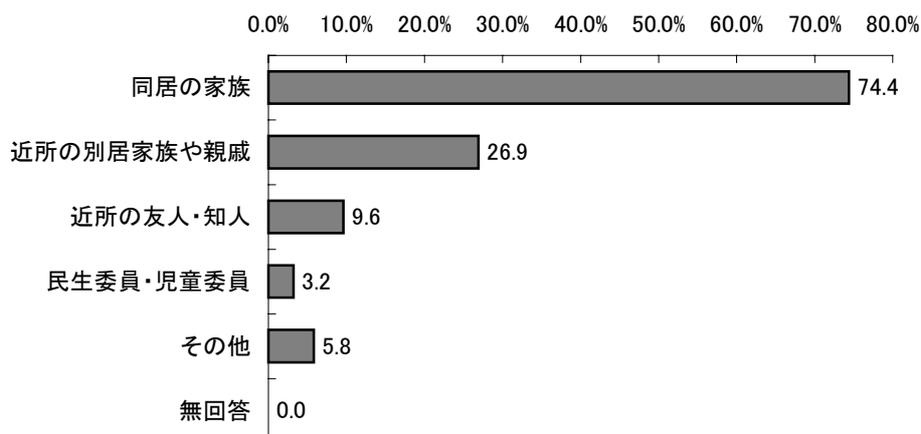
問25 地震や台風等の大きな災害が起きた場合に、安全の確保などで頼れる人が身近にいますか。

問25-1 (問25で「1.いる」を選んだ方のみお答えください) それはどなたですか。(〇はあてはまるものすべて)

【図表 3-3-73 災害時に頼れる人の有無】(n=237)



【図表 3-3-74 災害時に頼れる人】(n=156)



回答者の7割弱(65.8%)は災害時に頼れる人がおり、その内訳では「同居の家族」(74.4%)が最も多く、次いで「近所の別居家族や親戚」(26.9%)となっている。

家族構成別にみると、一人暮らしでは、災害時に頼れる人がいない人(54.5%)の割合が高く、いる人(45.5%)を上回っている。

【図表 3-3-75 家族構成別 災害時に頼れる人の有無】(%)

		調査数 「人」 (人)	いる	いない	無回答
全体		237	65.8	30.4	3.8
家族 構成 別	一人暮らし	33	45.5	54.5	-
	夫婦のみ	37	64.9	32.4	2.7
	父母等の家族と同居	160	69.4	26.3	4.4
	家族以外の人と同居	5	100.0	-	-
	無回答	2	50.0	-	50.0

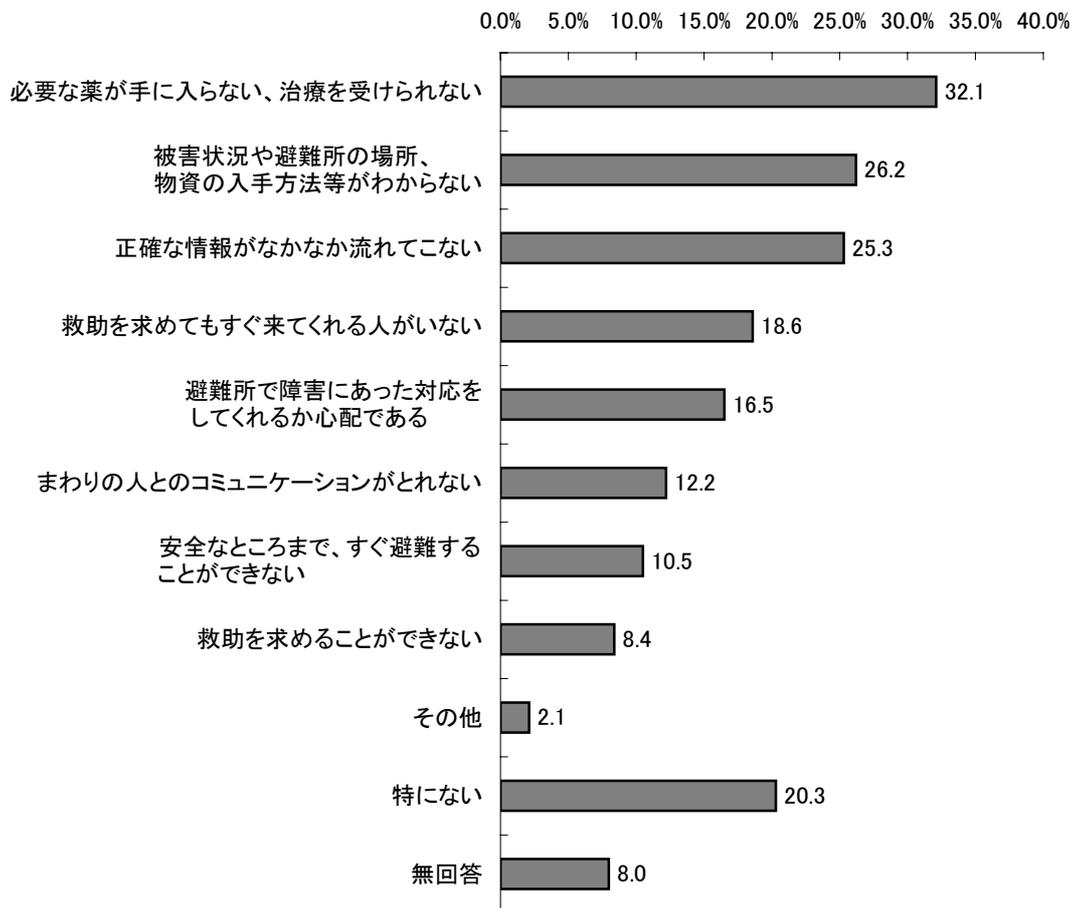
【図表 3-3-76 家族構成別 災害時に頼れる人】(%)

	調査数「n」 (人)	同居の家族	近所の別居家族や親戚	近所の友人・知人	民生委員・児童委員	その他	無回答
全体	156	74.4	26.9	9.6	3.2	5.8	-
家族構成別							
一人暮らし	15	-	66.7	20.0	-	13.3	-
夫婦のみ	24	91.7	8.3	8.3	8.3	-	-
父母等の家族と同居	111	84.7	24.3	8.1	2.7	4.5	-
家族以外の人と同居	5	-	40.0	20.0	-	40.0	-
無回答	1	-	100.0	-	-	-	-

(2) 災害時に心配なこと

問 2 6 地震や台風等の大きな災害が起きた場合、どのようなことが心配ですか。(〇は3つまで)

【図表 3-3-77 災害時に心配なこと】(n=237)



第3章 調査結果[精神障害者調査]

災害が起きた場合に心配なことは、「必要な薬が手に入らない、治療を受けられない」(32.1%)が最も多く、次いで「被害状況や避難所の場所、物資の入手方法等がわからない」(26.2%)、「正確な情報がなかなか流れてこない」(25.3%)となっている。

現在の症状別にみると、悪化傾向にある人や症状が不安定な人では他に比べて「避難所で障害にあった対応をしてくれるか心配である」の割合が高い。また、症状が不安定な人では「まわりの人とのコミュニケーションがとれない」(20.0%)の割合も他に比べて高い。

家族構成別にみると、一人暮らしでは、他の世帯に比べて「救助を求めてもすぐ来てくれる人がいない」(36.4%)や「安全なところまで、すぐ避難することができない」(24.2%)、「救助を求めることができない」(21.2%)などの割合が高く、避難に関する不安感が特に強いことがわかる。

【図表 3-3-78 現在の症状別・家族構成別 災害時に心配なこと】(%)

	調査数「n」 (人)	いい、必要な薬が手に入れない	被害状況や避難所の場所等	正確な情報がなかなか	て救助を求めない	対応をしてくる障害があつた	
全 体	237	32.1	26.2	25.3	18.6	16.5	
別現在の症状	回復	116	29.3	21.6	25.9	16.4	17.2
	変化なし	64	40.6	32.8	23.4	31.3	7.8
	悪化	14	28.6	28.6	28.6	7.1	35.7
	症状不安定	35	34.3	31.4	28.6	8.6	25.7
	無回答	8	-	12.5	12.5	12.5	-
家族構成別	一人暮らし	33	30.3	33.3	21.2	36.4	18.2
	夫婦のみ	37	18.9	24.3	29.7	18.9	8.1
	父母等の家族と同居	160	35.0	25.6	25.6	15.6	16.9
	家族以外の人と同居	5	60.0	20.0	20.0	-	60.0
	無回答	2	-	-	-	-	-

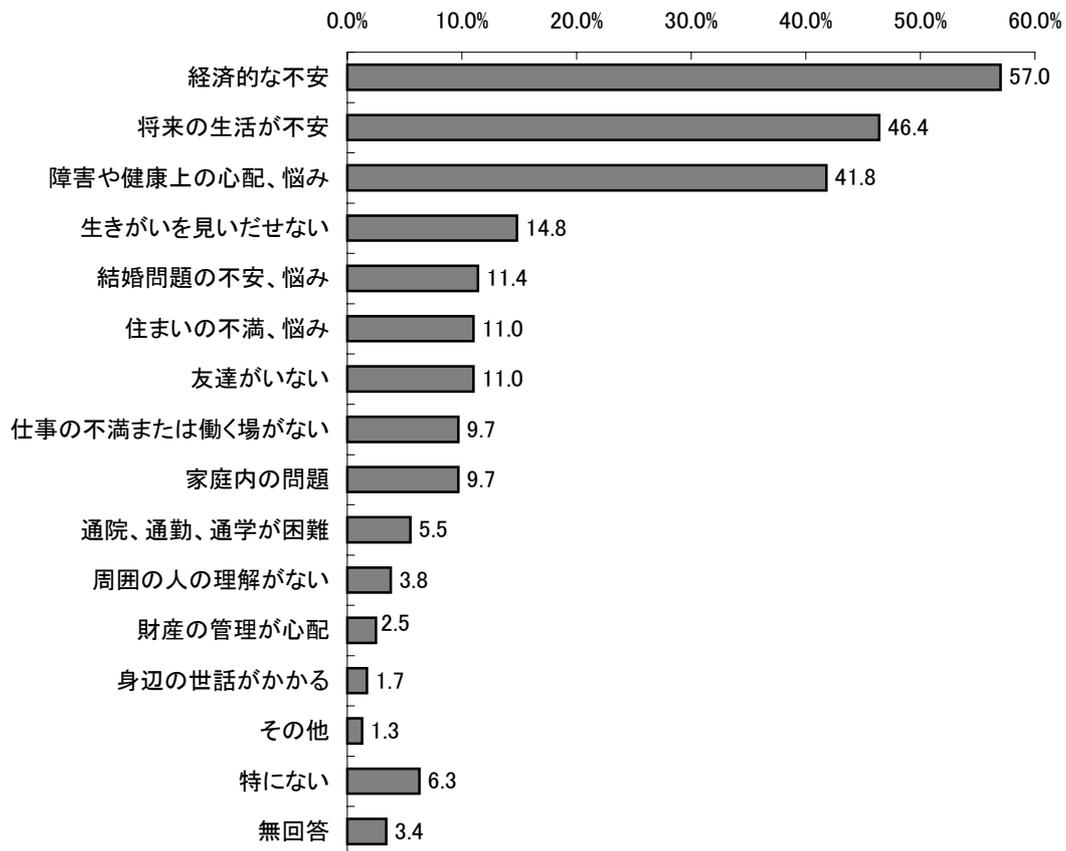
	調査数「n」 (人)	いまいけない	まわり避難するところまで、できず	安全なところまで、できず	救助を求めることができない	その他	特にない	無回答
全 体	237	12.2	10.5	8.4	2.1	20.3	8.0	
別現在の症状	回復	116	8.6	12.1	7.8	2.6	24.1	4.3
	変化なし	64	15.6	12.5	10.9	1.6	17.2	6.3
	悪化	14	14.3	14.3	14.3	7.1	28.6	-
	症状不安定	35	20.0	2.9	2.9	-	8.6	17.1
	無回答	8	-	-	12.5	-	25.0	50.0
家族構成別	一人暮らし	33	18.2	24.2	21.2	3.0	9.1	3.0
	夫婦のみ	37	8.1	21.6	8.1	2.7	24.3	13.5
	父母等の家族と同居	160	11.9	4.4	6.3	1.9	21.3	7.5
	家族以外の人と同居	5	20.0	40.0	-	-	20.0	-
	無回答	2	-	-	-	-	50.0	50.0

8. 生活全般について

(1) 困っていることや将来に対する不安・悩み

問27 現在の生活の中で困っていることや、将来に対する不安・悩みなどがありますか。
(○は3つまで)

【図表 3-3-79 困っていることや将来に対する不安・悩み】(n=237)



現在の生活の中で困っていることや将来に対する不安・悩みは、「経済的な不安」(57.0%)が最も多く、次いで「将来の生活が不安」(46.4%)、「障害や健康上の心配、悩み」(41.8%)となっている。

年齢別にみると、20歳代以下では「将来の生活が不安」が最も多いが、30～64歳までは「経済的な不安」が最も多く、65歳以上では「障害や健康上の心配、悩み」が最も多くなっている。また、30歳代では他の年齢層に比べて「仕事の不満または働く場がない」(24.2%)や「生きがいを見いだせない」(30.3%)の割合が高い。

現在の症状別にみると、いずれの状態像においても「経済的な不安」が最も多いが、回復傾向にある人では他に比べて「仕事の不満または働く場がない」(12.9%)や「結婚問題の不安、悩み」(16.4%)の割合が高い。また、悪化傾向にある人では他に比べて「生きがいを見いだせない」(42.9%)の割合が高い。

第3章 調査結果[精神障害者調査]

【図表 3-3-80 年齢別・現在の症状別 困っていることや将来に対する不安・悩み】(%)

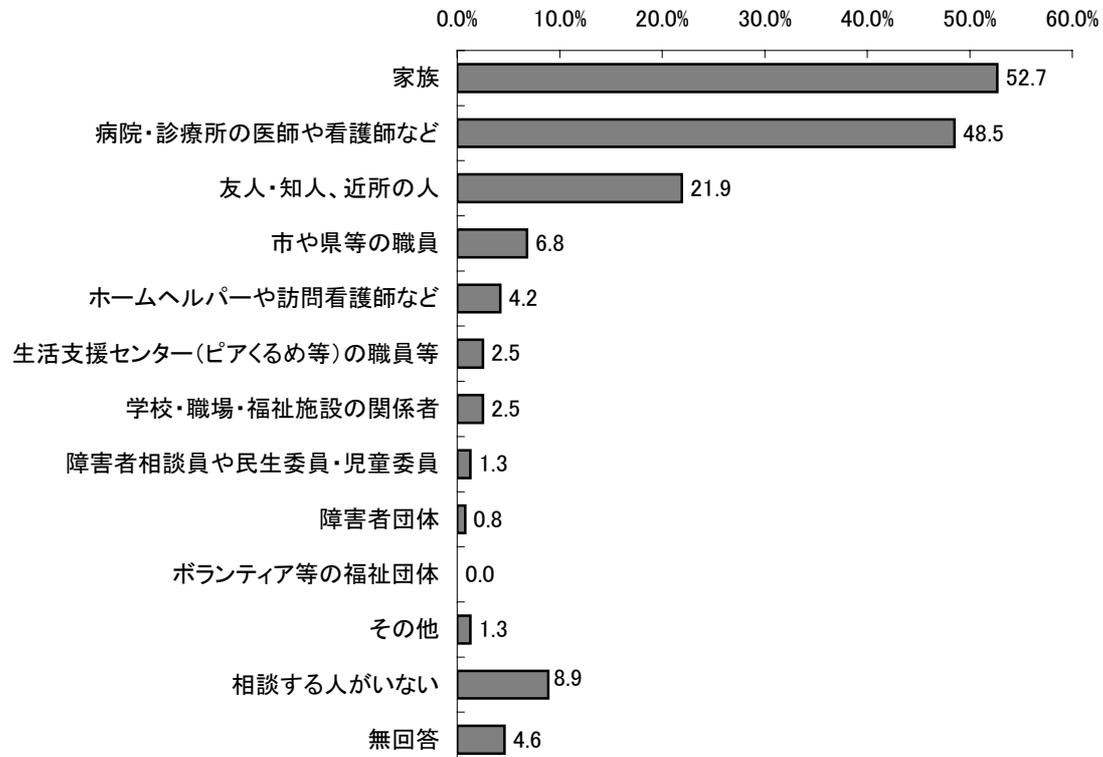
		調査数「n」 (人)	経済的な不安	将来の生活が不安	障害や健康上の心配、 悩み	生きがいを見いだせない	結婚問題の不安、 悩み	住まいの不满、 悩み	友達がいない	仕事の不満または働く 場がない
全体		237	57.0	46.4	41.8	14.8	11.4	11.0	11.0	9.7
年齢別	17歳以下	8	12.5	37.5	25.0	-	12.5	-	-	12.5
	18～29歳	33	39.4	54.5	39.4	15.2	30.3	9.1	3.0	15.2
	30～39歳	33	72.7	45.5	42.4	30.3	24.2	12.1	12.1	24.2
	40～49歳	50	56.0	46.0	34.0	20.0	8.0	14.0	14.0	8.0
	50～59歳	54	64.8	61.1	46.3	7.4	3.7	7.4	9.3	5.6
	60～64歳	22	68.2	36.4	40.9	13.6	4.5	9.1	18.2	-
	65歳以上	30	50.0	26.7	56.7	6.7	-	20.0	13.3	-
無回答	7	57.1	28.6	28.6	14.3	14.3	-	14.3	28.6	
別現在の 症状	回復	116	51.7	41.4	35.3	11.2	16.4	8.6	6.0	12.9
	変化なし	64	59.4	54.7	48.4	15.6	9.4	12.5	15.6	9.4
	悪化	14	57.1	42.9	50.0	42.9	-	14.3	14.3	7.1
	症状不安定	35	71.4	54.3	48.6	14.3	5.7	14.3	17.1	2.9
無回答	8	50.0	25.0	37.5	12.5	-	12.5	12.5	-	

		調査数「n」 (人)	家庭内の問題	難通院、 通勤、 通学が困	周囲の人の理解がない	財産の管理が心配	身辺の世話がかかる	その他	特 に ない	無 回 答
全体		237	9.7	5.5	3.8	2.5	1.7	1.3	6.3	3.4
年齢別	17歳以下	8	-	-	12.5	-	-	12.5	37.5	-
	18～29歳	33	18.2	12.1	3.0	6.1	3.0	-	3.0	3.0
	30～39歳	33	9.1	3.0	3.0	3.0	-	-	-	-
	40～49歳	50	8.0	4.0	2.0	-	2.0	-	8.0	6.0
	50～59歳	54	7.4	7.4	5.6	3.7	1.9	-	3.7	1.9
	60～64歳	22	22.7	4.5	9.1	-	-	4.5	9.1	-
	65歳以上	30	3.3	3.3	-	-	3.3	3.3	10.0	6.7
無回答	7	-	-	-	14.3	-	-	-	14.3	
別現在の 症状	回復	116	12.1	4.3	3.4	2.6	2.6	2.6	11.2	1.7
	変化なし	64	7.8	9.4	3.1	3.1	1.6	-	1.6	3.1
	悪化	14	7.1	7.1	7.1	-	-	-	7.1	-
	症状不安定	35	8.6	2.9	5.7	2.9	-	-	-	5.7
無回答	8	-	-	-	-	-	-	-	25.0	

(2) 困っていることや将来に対する不安・悩みの相談先

問28 生活の中で困っていることや、将来に対する不安や悩みを誰（どこ）に相談していますか。（〇はあてはまるものすべて）

【図表 3-3-81 困っていることや将来に対する不安・悩みの相談先】（n=237）



困っていることや将来に対する不安や悩みの相談先は、「家族」（52.7%）が最も多く、次いで「病院・診療所の医師や看護師など」（48.5%）、「友人・知人、近所の人」（21.9%）となっている。

年齢別にみると、18歳～40歳代では他の年齢層に比べて「病院・診療所の医師や看護師など」の割合が高く、過半数を占めている。

家族構成別にみると、一人暮らしでは、他の世帯に比べて「病院・診療所の医師や看護師など」（66.7%）や「ホームヘルパーや訪問看護師など」（15.2%）の割合が高い。

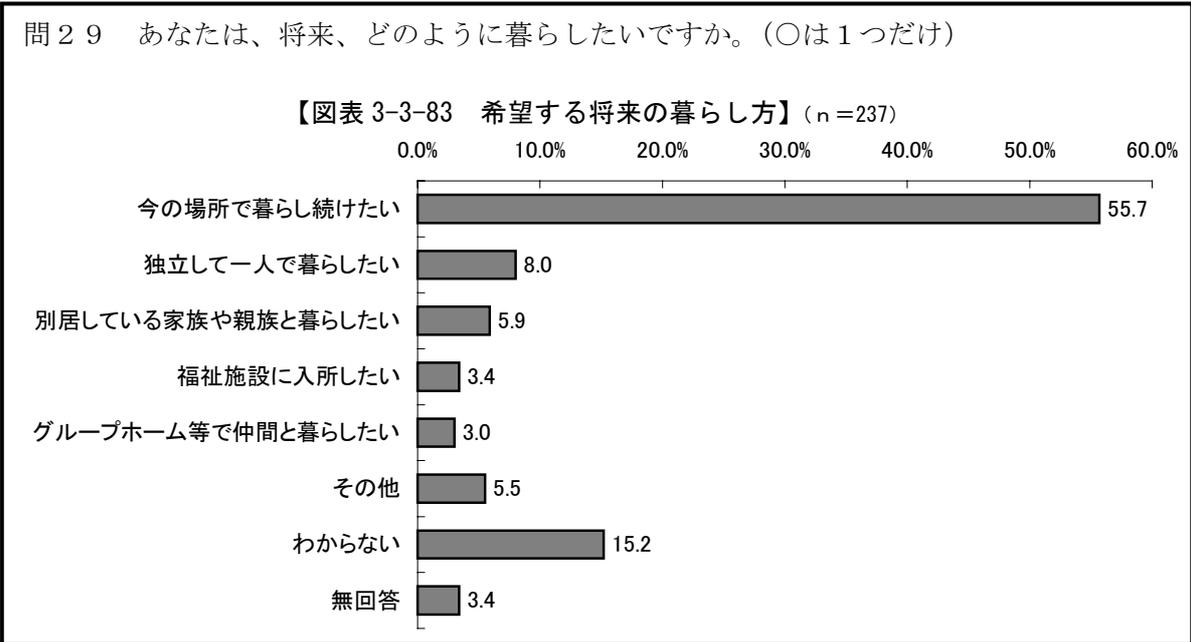
第3章 調査結果[精神障害者調査]

【図表 3-3-82 年齢別・家族構成別 困っていることや将来に対する不安・悩みの相談先】(%)

		調査数「n」 (人)	家族	病院・診療所の医師や 看護師など	友人・知人、 近所の人	市や県等の職員	ホームヘルパーや訪問 看護師など	生活支援センター(ピ アくるめ等)の職員等
全 体		237	52.7	48.5	21.9	6.8	4.2	2.5
年 齢 別	17歳以下	8	75.0	25.0	12.5	-	-	-
	18～29歳	33	63.6	63.6	33.3	3.0	-	6.1
	30～39歳	33	48.5	66.7	30.3	6.1	3.0	9.1
	40～49歳	50	36.0	52.0	20.0	6.0	2.0	-
	50～59歳	54	50.0	38.9	20.4	11.1	5.6	1.9
	60～64歳	22	54.5	45.5	18.2	9.1	4.5	-
	65歳以上	30	66.7	36.7	13.3	6.7	13.3	-
	無回答	7	71.4	28.6	14.3	-	-	-
家 族 構 成 別	一人暮らし	33	21.2	66.7	21.2	15.2	15.2	-
	夫婦のみ	37	67.6	27.0	18.9	8.1	5.4	2.7
	父母等の家族と同居	160	57.5	49.4	22.5	3.8	1.9	3.1
	家族以外の人と同居	5	-	80.0	40.0	40.0	-	-
	無回答	2	50.0	-	-	-	-	-

		調査数「n」 (人)	の学校・職 場・福祉施設 関係者	障害者相談員や民生委 員・児童委員	障害者団体	ボランティア等の福祉 団体	その他	相談する人がいない	無回答
全 体		237	2.5	1.3	0.8	-	1.3	8.9	4.6
年 齢 別	17歳以下	8	-	-	-	-	-	12.5	12.5
	18～29歳	33	-	-	-	-	-	6.1	3.0
	30～39歳	33	6.1	-	-	-	3.0	-	3.0
	40～49歳	50	2.0	-	-	-	-	16.0	8.0
	50～59歳	54	5.6	-	1.9	-	1.9	9.3	5.6
	60～64歳	22	-	-	-	-	4.5	9.1	-
	65歳以上	30	-	10.0	3.3	-	-	6.7	-
	無回答	7	-	-	-	-	-	14.3	14.3
家 族 構 成 別	一人暮らし	33	-	3.0	-	-	-	3.0	3.0
	夫婦のみ	37	2.7	2.7	2.7	-	-	13.5	-
	父母等の家族と同居	160	2.5	0.6	-	-	1.9	9.4	5.6
	家族以外の人と同居	5	20.0	-	20.0	-	-	-	-
	無回答	2	-	-	-	-	-	-	50.0

(3) 希望する将来の暮らし方



希望する将来の暮らし方は、「今の場所で暮らし続けたい」(55.7%)が半数を超えて最も多く、次いで「わからない」(15.2%)となっている。

「今の場所で暮らし続けたい」「独立して一人で暮らしたい」「別居している家族や親族と暮らしたい」「グループホーム等で仲間と暮らしたい」をあわせると、自宅や地域で生活したいと考えている人が72.6%を占めており、これに対して福祉施設入所希望者(「福祉施設に入所したい」)は3.4%となっている。

年齢別にみると、17歳以下では「わからない」(62.5%)が最も多いが、その他の年齢層では「今の場所で暮らし続けたい」が最も多い。また、20歳代以下では「独立して一人で暮らしたい」が2割前後と高い。

現在の症状別にみると、いずれの状態においても「今の場所で暮らし続けたい」が最も多いが、悪化傾向にある人では他に比べて福祉施設入所希望者(21.4%)の割合が高い。

家族構成別にみると、一人暮らしでは他の世帯に比べて福祉施設入所希望者の割合が高く、12.1%となっている。

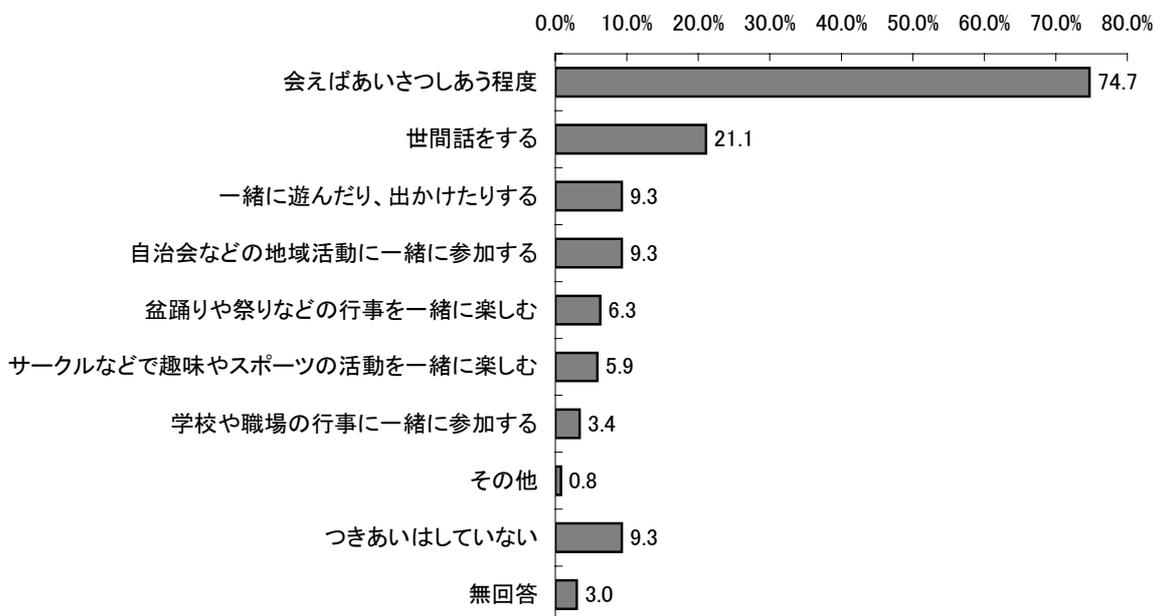
【図表 3-3-84 年齢別・現在の症状別・家族構成別 希望する将来の暮らし方】(%)

	(調査数「n」)	今の場所で暮らし続けたい (%)	独立して一人で暮らしたい (%)	別居している家族や親族と暮らしたい (%)	福祉施設に入所したい (%)	グループホーム等で仲間と暮らしたい (%)	その他 (%)	わからない (%)	無回答 (%)
全体	237	55.7	8.0	5.9	3.4	3.0	5.5	15.2	3.4
年齢別	17歳以下	8	12.5	25.0	-	-	-	62.5	-
	18～29歳	33	48.5	18.2	6.1	-	-	15.2	3.0
	30～39歳	33	42.4	15.2	6.1	3.0	6.1	15.2	-
	40～49歳	50	54.0	8.0	10.0	-	-	4.0	6.0
	50～59歳	54	61.1	1.9	5.6	7.4	3.7	-	3.7
	60～64歳	22	68.2	-	9.1	9.1	4.5	-	-
	65歳以上	30	76.7	-	-	3.3	3.3	3.3	3.3
無回答	7	42.9	14.3	-	-	14.3	-	14.3	
現在の症状	回復	116	61.2	8.6	3.4	1.7	1.7	6.0	2.6
	変化なし	64	54.7	6.3	6.3	3.1	3.1	6.3	1.6
	悪化	14	42.9	7.1	7.1	21.4	7.1	-	7.1
	症状不安定	35	48.6	11.4	11.4	2.9	5.7	5.7	2.9
	無回答	8	37.5	-	12.5	-	-	-	25.0
家族構成別	一人暮らし	33	42.4	-	9.1	12.1	6.1	9.1	-
	夫婦のみ	37	81.1	-	5.4	-	-	-	2.7
	父母等の家族と同居	160	53.1	11.9	5.6	2.5	3.1	6.3	3.8
	家族以外の人と同居	5	60.0	-	-	-	-	-	-
	無回答	2	-	-	-	-	-	-	50.0

(4) 地域の人とのつきあい

問30 あなたは、ふだん地域の方とどのようなおつきあいをしていますか。(〇はあてはまるものすべて)

【図表 3-3-85 地域の人とのつきあい】(n=237)



地域の人とのつきあいについては、「会えばあいさつしあう程度」(74.7%)が7割を超えて最も多く、次いで「世間話をする」(21.1%)となっている。

年齢別にみると、すべての年齢層において「会えばあいさつしあう程度」が最も多いが、40・50歳代では他の年齢層に比べて「世間話をする」の割合が高い。また、30～50歳代では「つきあいはしていない」が1割を超えている。

現在の症状別にみると、いずれの状態像においても「会えばあいさつしあう程度」が最も多いが、回復傾向にある人では他に比べて「一緒に遊んだり、出かけたりする」(14.7%)の割合が高い。

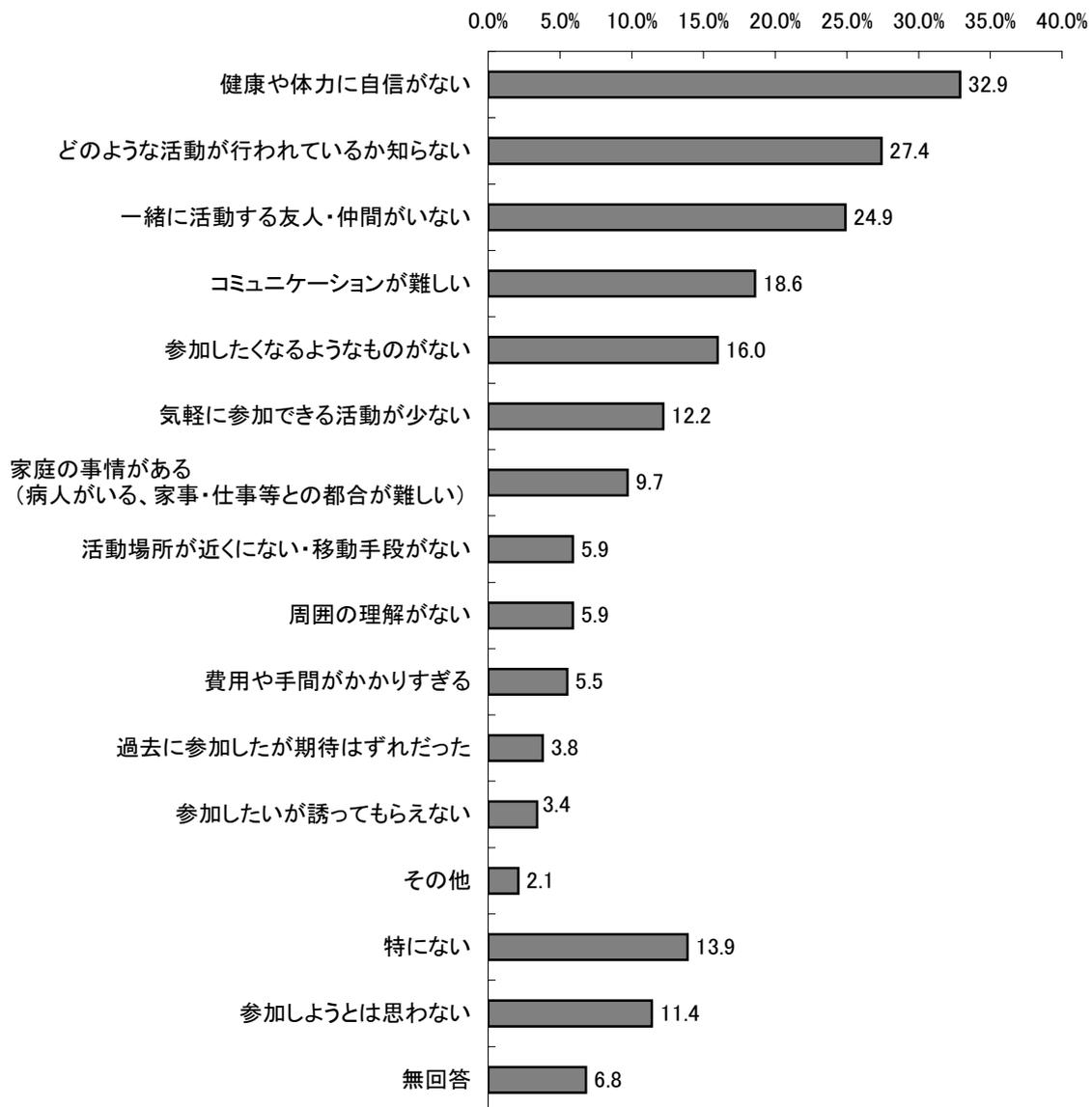
【図表 3-3-86 年齢別・現在の症状別 地域の人とのつきあい】(%)

	調査数「n」(人)	会えばあいさつしあう程度	世間話をする	一緒に遊んだり、出かけたりする	自治会などの地域活動	盆踊りや祭りなどの行事	サークルなどの活動で趣味や	学校や職場の行事に参加する	その他	つきあいはしていない	無回答	
全体	237	74.7	21.1	9.3	9.3	6.3	5.9	3.4	0.8	9.3	3.0	
年齢別	17歳以下	8	75.0	-	50.0	12.5	25.0	25.0	25.0	-	-	
	18～29歳	33	72.7	6.1	9.1	6.1	-	6.1	3.0	3.0	9.1	3.0
	30～39歳	33	78.8	6.1	3.0	6.1	3.0	6.1	3.0	-	15.2	3.0
	40～49歳	50	64.0	34.0	14.0	14.0	4.0	4.0	4.0	2.0	12.0	6.0
	50～59歳	54	74.1	29.6	9.3	11.1	11.1	5.6	3.7	-	11.1	-
	60～64歳	22	90.9	13.6	-	4.5	4.5	-	-	-	4.5	-
	65歳以上	30	76.7	30.0	6.7	10.0	10.0	10.0	-	-	3.3	3.3
無回答	7	85.7	14.3	-	-	-	-	-	-	-	14.3	
現在の症状別	回復	116	75.0	23.3	14.7	9.5	6.9	7.8	5.2	-	7.8	2.6
	変化なし	64	67.2	17.2	3.1	6.3	9.4	6.3	1.6	1.6	14.1	1.6
	悪化	14	92.9	21.4	7.1	7.1	-	-	-	-	7.1	-
	症状不安定	35	85.7	22.9	5.7	11.4	2.9	-	2.9	2.9	5.7	2.9
	無回答	8	50.0	12.5	-	25.0	-	12.5	-	-	12.5	25.0

(5) 地域活動に参加するときに妨げとなること

問3 1 あなたが地域の行事や活動に参加しようとした場合、そのさまたげとなることはありますか。(〇はあてはまるものすべて)

【図表 3-3-87 地域活動に参加するときに妨げとなること】(n=237)



地域の行事や活動に参加するときに妨げとなることは、「健康や体力に自信がない」(32.9%)が最も多く、次いで「どのような活動が行われているか知らない」(27.4%)、「一緒に活動する友人・仲間がいない」(24.9%)となっている。また、「特になし」が13.9%、「参加しようとは思わない」が11.4%となっている。

年齢別にみると、18歳～30歳代では他の年齢層に比べて「どのような活動が行われているか知らない」や「一緒に活動する友人・仲間がいない」、「コミュニケーションが難しい」、「参加したくなるようなものがない」などの割合が高い。

第3章 調査結果[精神障害者調査]

【図表 3-3-88 年齢別・現在の症状別 地域活動に参加するときに妨げとなること】(%)

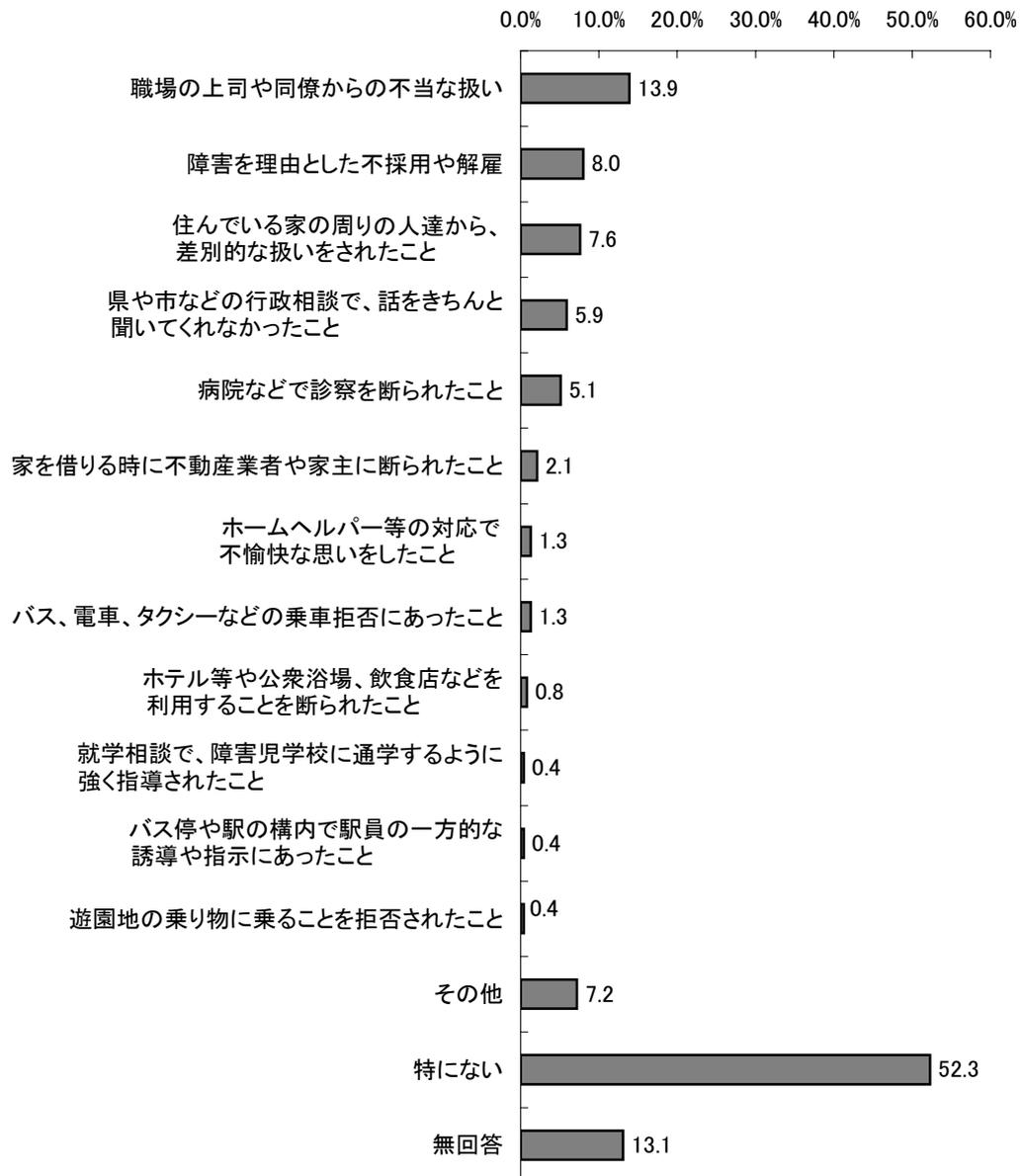
		調査数「n」 (人)	健康や体力に自信がない	どのような活動が行われていないか知らない	一緒に活動する友人・仲間がいない	難しいコミュニケーションが	参加したくなるような	気軽に参加できる活動が少ない	家庭の事情がある(家事・仕事)	移動手段が近くにない
全	体	237	32.9	27.4	24.9	18.6	16.0	12.2	9.7	5.9
年	17歳以下	8	12.5	-	-	12.5	-	-	-	-
	18～29歳	33	36.4	45.5	39.4	33.3	27.3	21.2	9.1	15.2
	30～39歳	33	30.3	45.5	39.4	36.4	24.2	15.2	9.1	9.1
	40～49歳	50	26.0	24.0	26.0	14.0	12.0	12.0	12.0	2.0
	50～59歳	54	33.3	22.2	14.8	14.8	20.4	13.0	11.1	7.4
	60～64歳	22	27.3	22.7	27.3	22.7	9.1	13.6	13.6	-
	65歳以上	30	50.0	16.7	16.7	-	3.3	-	3.3	3.3
	無回答	7	42.9	14.3	14.3	-	14.3	14.3	14.3	-
別	回復	116	33.6	24.1	22.4	15.5	15.5	6.9	7.8	6.9
	変化なし	64	31.3	32.8	28.1	20.3	15.6	23.4	10.9	3.1
	悪化	14	50.0	28.6	28.6	28.6	21.4	21.4	28.6	21.4
	症状不安定	35	28.6	31.4	28.6	22.9	20.0	8.6	8.6	2.9
	無回答	8	25.0	12.5	12.5	12.5	-	-	-	-

		調査数「n」 (人)	周囲の理解がない	費用や手間がかかりすぎる	過去に参加したが期待はずれだった	参加したいが誘っても	その他	特にな	い参加しようとは思わ	無
全	体	237	5.9	5.5	3.8	3.4	2.1	13.9	11.4	6.8
年	17歳以下	8	-	-	-	-	12.5	62.5	-	-
	18～29歳	33	12.1	9.1	6.1	9.1	12.1	12.1	6.1	3.0
	30～39歳	33	9.1	12.1	3.0	-	-	-	12.1	9.1
	40～49歳	50	10.0	-	2.0	4.0	-	14.0	16.0	10.0
	50～59歳	54	1.9	9.3	7.4	1.9	-	14.8	5.6	3.7
	60～64歳	22	4.5	4.5	-	4.5	-	18.2	13.6	4.5
	65歳以上	30	-	-	3.3	-	-	16.7	20.0	10.0
	無回答	7	-	-	-	14.3	-	-	14.3	14.3
別	回復	116	3.4	5.2	4.3	1.7	2.6	19.8	11.2	4.3
	変化なし	64	7.8	6.3	3.1	7.8	1.6	9.4	9.4	4.7
	悪化	14	14.3	14.3	7.1	7.1	7.1	14.3	14.3	-
	症状不安定	35	8.6	2.9	2.9	-	-	5.7	14.3	11.4
	無回答	8	-	-	-	-	-	-	12.5	50.0

(6) 差別的な扱いを受けたり、いやな思いをした経験の有無

問32 あなたはこれまでに次のような差別的な扱いを受けたり、いやな思いをしたことがありますか。(〇はあてはまるものすべて)

【図表 3-3-89 差別的な扱いを受けたり、いやな思いをした経験の有無】(n=237)



差別的な扱いを受けたり、いやな思いをした経験については「特にない」(52.3%)が半数を超えて最も多いが、具体的な内容では「職場の上司や同僚からの不当な扱い」(13.9%)が最も多く、1割を超えている。

年齢別にみても、すべての年齢層で「特にない」が最も多いが、いやな思い等をした内容は、18～29歳では「職場の上司や同僚からの不当な扱い」(24.2%)が最も多く、30歳代では「障害を理由とした不採用や解雇」(18.2%)が最も多い。

現在の症状別にみると、いずれの状態においても「特にない」が最も多いが、悪化傾向にある人では他に比べて全般的に割合が高い。

第3章 調査結果[精神障害者調査]

【図表 3-3-90 年齢別・現在の症状別 差別的な扱いを受けたり、いやな思いをした経験の有無】(%)

	調査数「n」 (人)	職場の上司や同僚からの不当な扱い	障害を理由とした採用や解雇	住んでいる家の周りの人を差別したこと	市などの行政相談や話しかけたこと	病院などで診察を断られたこと	業者や家主に断られたこと	家を借りる時に不動産業者を借りたこと	ホームヘルパー等の対応で不愉快な思いをしたこと
全体	237	13.9	8.0	7.6	5.9	5.1	2.1	1.3	
年齢別	17歳以下	8	-	-	-	-	-	-	
	18～29歳	33	24.2	6.1	15.2	3.0	12.1	3.0	
	30～39歳	33	15.2	18.2	15.2	3.0	6.1	6.1	
	40～49歳	50	14.0	12.0	8.0	10.0	6.0	2.0	
	50～59歳	54	14.8	7.4	1.9	7.4	3.7	-	
	60～64歳	22	9.1	-	9.1	4.5	-	4.5	
	65歳以上	30	-	-	3.3	6.7	3.3	-	
	無回答	7	42.9	14.3	-	-	-	-	
別現在の症状	回復	116	12.1	5.2	8.6	4.3	2.6	0.9	
	変化なし	64	15.6	10.9	4.7	7.8	-	-	
	悪化	14	21.4	21.4	14.3	14.3	14.3	21.4	
	症状不安定	35	17.1	8.6	8.6	5.7	5.7	2.9	
	無回答	8	-	-	-	-	-	-	

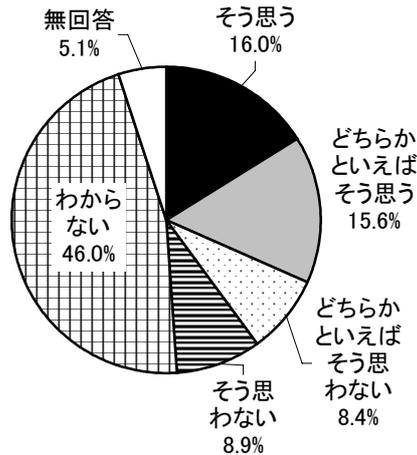
	調査数「n」 (人)	バス、電車の乗車拒否にあつたこと	飲食店や公共浴場、ホテル等を利用するのを断られたこと	学校通学や通学する際に通学されたこと	就学相談や障害児学指に導かれたこと	バス停や駅構内で指しに一方的な誘導や指	遊園地の乗り物に乗るときに拒否されたこと	その他	特にない	無回答
全体	237	1.3	0.8	0.4	0.4	0.4	0.4	7.2	52.3	13.1
年齢別	17歳以下	8	-	-	-	-	-	12.5	87.5	-
	18～29歳	33	3.0	3.0	3.0	-	3.0	15.2	39.4	15.2
	30～39歳	33	-	-	-	-	-	9.1	48.5	9.1
	40～49歳	50	-	-	-	-	-	6.0	48.0	16.0
	50～59歳	54	3.7	-	-	1.9	-	1.9	55.6	11.1
	60～64歳	22	-	4.5	-	-	-	-	63.6	9.1
	65歳以上	30	-	-	-	-	-	13.3	56.7	20.0
	無回答	7	-	-	-	-	-	-	42.9	14.3
別現在の症状	回復	116	0.9	0.9	-	-	-	8.6	56.0	12.9
	変化なし	64	-	-	-	-	-	3.1	59.4	6.3
	悪化	14	7.1	7.1	7.1	-	7.1	14.3	50.0	-
	症状不安定	35	2.9	-	-	2.9	-	8.6	34.3	17.1
	無回答	8	-	-	-	-	-	-	25.0	75.0

9. 福祉全般について

(1) ノーマライゼーションのまちづくり

問33 「障害がある人もない人も、ともに生きていくことができる社会こそ普通の社会である。障害がある人も職場で一緒に働いていたり、地域活動やいろいろな催し物とともに参加し、行動できるような社会にすべきである。」という考え方を一般に『ノーマライゼーション』と呼びます。久留米市は、この『ノーマライゼーション』の考え方を活かしたまちづくりをしていると思いますか。(○は1つだけ)

【図表 3-3-91 ノーマライゼーションのまちづくり】(n=237)



久留米市がノーマライゼーションを活かしたまちづくりをしているかという問いに対しては、「わからない」(46.0%)との回答が最も多い。ノーマライゼーションを活かしたまちづくりをしていると思っている人は31.6%（「そう思う」:16.0%、「どちらかといえばそう思う」:15.6%）、思わない人は17.3%（「どちらかといえばそう思わない」:8.4%、「そう思わない」:8.9%）となっている。

年齢別にみると、ノーマライゼーションを活かしたまちづくりをしているとは思わない人の割合は、30歳代(30.3%)で最も高く、その中でも「そう思わない」(21.2%)が2割を超えて高い。

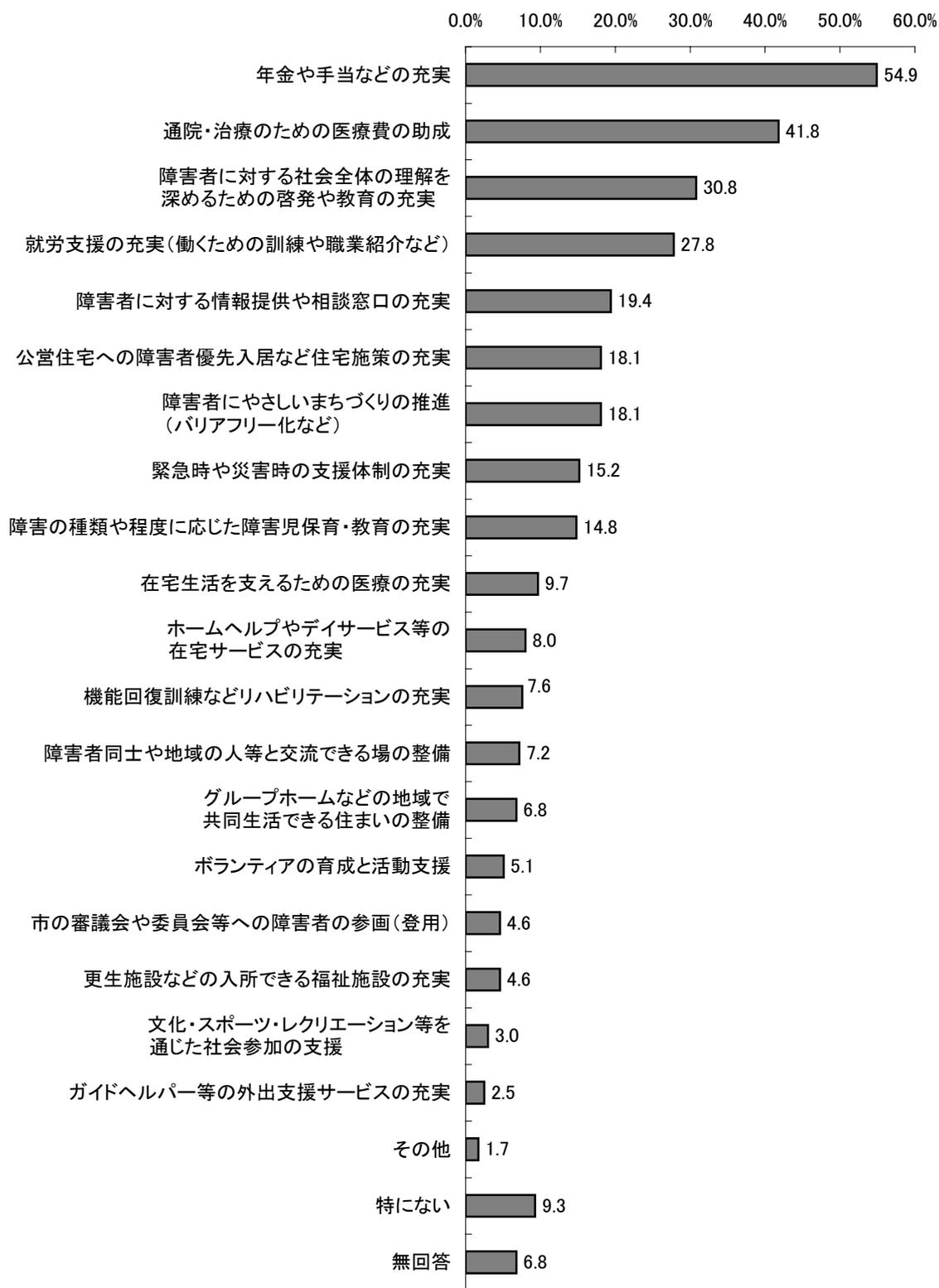
【図表 3-3-92 年齢別・現在の症状別 ノーマライゼーションのまちづくり】(%)

		(調査数「n」)	そう思う	どちらか 思か うとい え	どちら 思か わとい え	そう 思わ ない	わ か ら な い	無 回 答
全 体		237	16.0	15.6	8.4	8.9	46.0	5.1
年 齢 別	17歳以下	8	12.5	25.0	12.5	12.5	37.5	-
	18～29歳	33	18.2	15.2	6.1	12.1	45.5	3.0
	30～39歳	33	9.1	15.2	9.1	21.2	39.4	6.1
	40～49歳	50	16.0	18.0	14.0	14.0	36.0	2.0
	50～59歳	54	9.3	16.7	7.4	1.9	55.6	9.3
	60～64歳	22	27.3	18.2	9.1	-	40.9	4.5
	65歳以上	30	26.7	10.0	3.3	3.3	53.3	3.3
	無回答	7	14.3	-	-	-	71.4	14.3
別 現 在 の 症 状	回復	116	19.8	19.8	8.6	6.9	42.2	2.6
	変化なし	64	14.1	10.9	12.5	10.9	46.9	4.7
	悪化	14	7.1	14.3	7.1	7.1	64.3	-
	症状不安定	35	14.3	11.4	2.9	14.3	48.6	8.6
	無回答	8	-	12.5	-	-	50.0	37.5

(2) 障害者福祉施策として重点的に進めるべきこと

問34 今後、障害がある人の自立と福祉の向上のための支援として、久留米市はどのようなことを重点的に進めるべきだと考えますか。(〇は5つまで)

【図表 3-3-93 障害者福祉施策として重点的に進めるべきこと】(n=237)



障害者福祉施策として久留米市が重点的に進めるべきことは、「年金や手当などの充実」(54.9%)が最も多く、次いで「通院・治療のための医療費の助成」(41.8%)、「障害者に対する社会全体の理解を深めるための啓発や教育の充実」(30.8%)、「就労支援の充実(働くための訓練や職業紹介など)」(27.8%)、「障害者に対する情報提供や相談窓口の充実」(19.4%)となっている。

現在の症状別にみると、いずれの状態像においても「年金や手当などの充実」が最も多いが、悪化傾向にある人では他に比べて「グループホームなどの地域で共同生活できる住まいの整備」(21.4%)や「更生施設などの入所できる福祉施設の充実」(14.3%)、「障害者に対する情報提供や相談窓口の充実」(35.7%)の割合が高い。

ノーマライゼーションを活かしたまちづくりに対する評価別にみると、久留米市がノーマライゼーションを活かしたまちづくりをしているとは思わない人は、そう思う人に比べて「障害者に対する社会全体の理解を深めるための啓発や教育の充実」(53.7%)や「障害者に対する情報提供や相談窓口の充実」(31.7%)などの割合が高い。

【図表 3-3-94 年齢別・現在の症状別・ノーマライゼーションに対する評価別
障害者福祉施策として重点的に進めるべきこと】(%)

	調査数「n」(人)	年金や手当などの充実	療通費院の・助成の療のため	の体障啓の害者や解を深める充た全	な就ため(の)の支訓練の充職実(働介	供障や害者相に窓対するの充情実報提	充先入営居住宅などへの宅障害策者の優	フづく害者化の推進(パリア	
全 体	237	54.9	41.8	30.8	27.8	19.4	18.1	18.1	
年 齢 別	17歳以下	8	37.5	25.0	12.5	12.5	25.0	-	50.0
	18～29歳	33	51.5	51.5	27.3	42.4	27.3	24.2	15.2
	30～39歳	33	45.5	42.4	42.4	33.3	24.2	21.2	33.3
	40～49歳	50	60.0	42.0	34.0	42.0	22.0	20.0	14.0
	50～59歳	54	63.0	33.3	27.8	22.2	18.5	16.7	9.3
	60～64歳	22	63.6	54.5	36.4	13.6	13.6	9.1	22.7
	65歳以上	30	40.0	43.3	23.3	3.3	6.7	16.7	16.7
	無回答	7	71.4	28.6	28.6	42.9	14.3	28.6	14.3
別 現 在 の 症 状	回復	116	54.3	44.8	34.5	31.9	20.7	17.2	21.6
	変化なし	64	53.1	42.2	26.6	25.0	17.2	20.3	17.2
	悪化	14	50.0	35.7	28.6	28.6	35.7	14.3	14.3
	症状不安定	35	62.9	40.0	31.4	25.7	17.1	20.0	14.3
	無回答	8	50.0	12.5	12.5	-	-	12.5	-
価 対 シ イ ノ 別 す ヨ ゼ る ン マ 評 に ラ	思う	75	65.3	42.7	41.3	32.0	21.3	18.7	24.0
	思わない	41	58.5	41.5	53.7	39.0	31.7	22.0	29.3
	わからない	109	51.4	45.0	18.3	22.9	14.7	18.3	10.1
	無回答	12	8.3	8.3	-	8.3	8.3	-	16.7

第3章 調査結果[精神障害者調査]

		調査数「n」(人)	緊急時や災害時の支援体制の充実	障害の種類や程度に応じた障害児保育・教育の充実	在宅生活を支えるための医療の充実	ホームヘルプやデイサービスの充実	機能回復訓練などリハビリテーションの充実	障害者同士や地域の整備等と交流できる場の整備	地域で共同生活できる住まいの整備	グループホームなどの
全体		237	15.2	14.8	9.7	8.0	7.6	7.2	6.8	
年齢別	17歳以下	8	37.5	37.5	12.5	-	12.5	-	12.5	
	18～29歳	33	18.2	12.1	6.1	3.0	15.2	12.1	3.0	
	30～39歳	33	18.2	12.1	3.0	6.1	6.1	9.1	12.1	
	40～49歳	50	8.0	14.0	10.0	2.0	8.0	8.0	-	
	50～59歳	54	14.8	16.7	11.1	13.0	-	7.4	9.3	
	60～64歳	22	4.5	27.3	4.5	18.2	18.2	9.1	9.1	
	65歳以上	30	20.0	6.7	20.0	13.3	6.7	-	10.0	
	無回答	7	28.6	-	14.3	-	-	-	-	
現在の症状	回復	116	15.5	12.9	11.2	7.8	6.9	6.9	6.9	
	変化なし	64	21.9	17.2	9.4	10.9	14.1	6.3	3.1	
	悪化	14	14.3	28.6	7.1	-	7.1	14.3	21.4	
	症状不安定	35	-	14.3	5.7	5.7	-	8.6	5.7	
	無回答	8	25.0	-	12.5	12.5	-	-	12.5	
個別するに 対する評価	思う	75	13.3	17.3	10.7	10.7	9.3	8.0	6.7	
	思わない	41	17.1	19.5	9.8	9.8	12.2	9.8	4.9	
	わからない	109	17.4	12.8	10.1	6.4	5.5	5.5	8.3	
	無回答	12	-	-	-	-	-	8.3	-	

		調査数「n」(人)	ボランティアの育成と活動支援	市の審議会や委員会等への障害者の参画(登用)	更生施設などの入所できる福祉施設の充実	文化・スポーツ・レクリエーション等を通じた社会参加の支援	ガイドヘルパー等の外出支援サービスの充実	その他	特になし	無回答
全体		237	5.1	4.6	4.6	3.0	2.5	1.7	9.3	6.8
年齢別	17歳以下	8	-	-	-	-	-	-	-	12.5
	18～29歳	33	6.1	6.1	-	6.1	3.0	-	15.2	3.0
	30～39歳	33	3.0	6.1	6.1	6.1	3.0	9.1	3.0	6.1
	40～49歳	50	8.0	4.0	-	2.0	2.0	-	12.0	6.0
	50～59歳	54	3.7	7.4	7.4	1.9	3.7	-	7.4	9.3
	60～64歳	22	4.5	-	9.1	-	-	-	9.1	-
	65歳以上	30	6.7	3.3	10.0	-	3.3	3.3	13.3	10.0
	無回答	7	-	-	-	14.3	-	-	-	14.3
現在の症状	回復	116	3.4	6.0	5.2	1.7	0.9	1.7	8.6	4.3
	変化なし	64	9.4	3.1	4.7	4.7	3.1	3.1	9.4	6.3
	悪化	14	7.1	7.1	14.3	7.1	-	-	14.3	-
	症状不安定	35	-	2.9	-	2.9	2.9	-	11.4	11.4
	無回答	8	12.5	-	-	-	25.0	-	-	37.5
個別するに 対する評価	思う	75	2.7	8.0	5.3	4.0	5.3	2.7	5.3	1.3
	思わない	41	9.8	7.3	4.9	-	-	-	12.2	-
	わからない	109	5.5	1.8	4.6	3.7	1.8	1.8	11.0	5.5
	無回答	12	-	-	-	-	-	-	8.3	75.0